

# 長野市災害復興計画

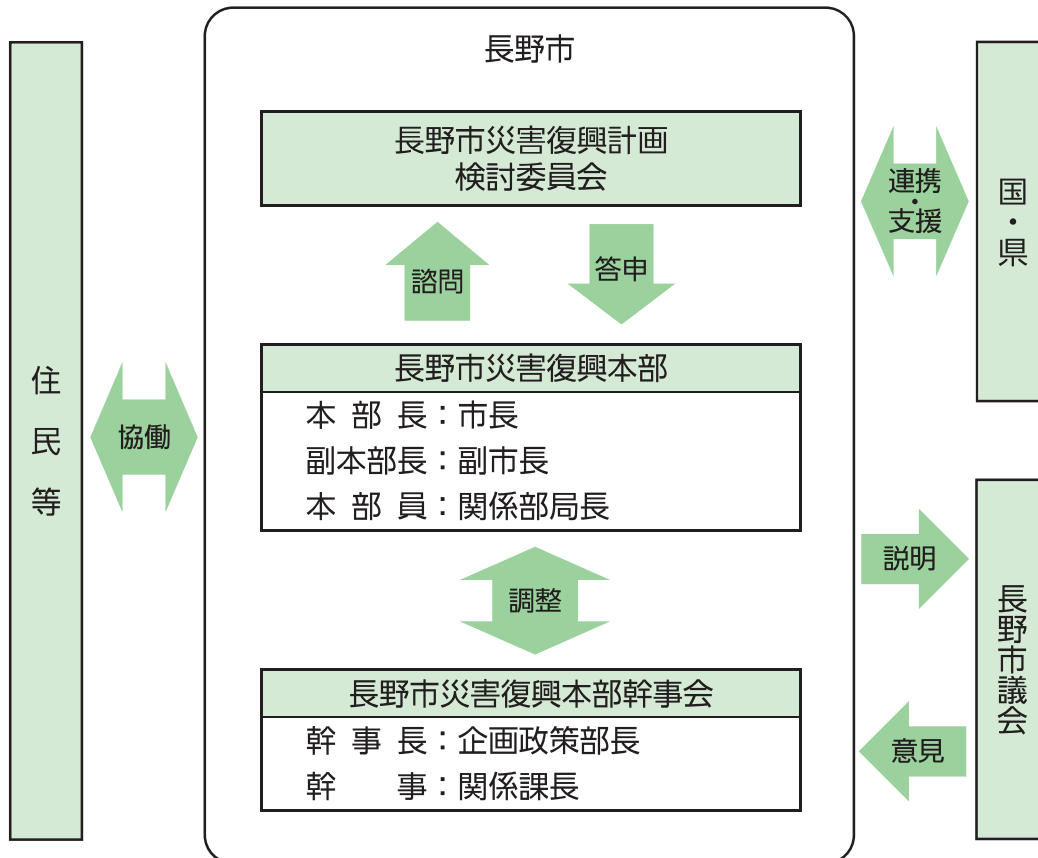
## 【資料編】

### 〈令和元年東日本台風関連〉

- 1 策定経過
- 2 長野市 復旧・復興方針
- 3 長野市災害復興計画検討委員会
- 4 市民参画
- 5 過去の主な水害の状況
- 6 用語の解説

# 1 策定経過

## 長野市災害復興計画策定に向けた検討体制



## 長野市災害復興計画策定経過

年	月	長野市災害復興計画検討委員会	市民参画
令和元年	10		長野市災害対策本部設置 [10月12日]
	11	長野市復旧・復興方針の策定・公表 [11月13日]	
	12		長野市災害復興本部設置 [12月1日]
令和2年	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回 [1月14日] ≪諮問≫</li> <li>● 第2回 [1月22日] ※災害現場視察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若穂地区意見交換会 [1月15日]</li> <li>● 古里地区意見交換会 [1月15日]</li> <li>● 豊野地区意見交換会 [1月18日]</li> <li>● 篠ノ井地区意見交換会 [1月20日]</li> <li>● 住民意向調査 [1月27日～2月5日]</li> <li>● 松代地区意見交換会 [1月30日]</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3回 [2月5日]</li> <li>● 第4回 [2月25日]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長沼地区意見交換会 [2月4日]</li> <li>● パブリックコメント [2月27日～3月18日]</li> </ul>
	3		
	4		長野市災害復興計画の策定・公表 [4月2日]

## 長野市災害復興計画検討委員会への諮問

元復推第5号

令和2年1月14日

長野市災害復興計画検討委員会  
委員長 松岡保正様

長野市長 加藤久雄

### 長野市災害復興計画の策定について（諮問）

長野市執行機関の附属機関に関する条例（平成27年条例第3号）第2条の規定により、長野市災害復興計画の策定について貴委員会に意見を求めます。

### 諮問事項

令和元年台風第19号は、長野市において初めてとなる大雨特別警報が発表される中、市内長沼地区穂保地先にて千曲川の堤防が決壊したほか、各地で越水や内水氾濫が発生しました。

この災害により、お二人の尊い命が失われ、1,500ha、4,000戸を超える住宅が浸水したほか、下水処理施設等の浸水被害による業務の停止、市内各地で発生した土砂崩れや倒木、長期間の停電など、広く市民生活に影響が及び、災害救助法の適用や激甚災害の指定を受けるなどの甚大な被害に見舞われました。

市民の皆様の「これからも安心して地域に住み続けたい」という気持ちに応えるためには、一日も早く復旧することはもちろんのこと、更に復旧の先の将来を見据え、これまで以上に豊かで活気のあるまちとするべく、全市一丸となって復興に取り組んでいく必要があります。

そのため、被災者をはじめとする様々な皆様のご意見を伺いながら、中長期的な視点も盛り込んだ、復興・再生に向けた「長野市災害復興計画」を策定することといたしました。

つきましては、災害復興計画の策定に当たり、貴委員会での専門的かつ幅広い見地からのご検討をいただきたく、諮問いたします。

令和2年3月27日

長野市長 加藤久雄様

長野市災害復興計画検討委員会  
委員長 松岡保正

長野市災害復興計画の策定について（答申）

令和2年1月14日付け元復推第5号で諮問のありましたこのことについて、本委員会で慎重に審議を重ねた結果、別冊のとおり決定しましたので答申します。

## 2 長野市 復旧・復興方針

令和元年11月13日策定

### 令和元年台風第19号災害 長野市 復旧・復興方針

長野市

#### I 基本的な考え方

- ・令和元年台風第19号災害により被災された市民の皆様に1日も早く日常生活を取り戻していただけるよう、国・県・災害応援協定を締結している自治体や団体等と連携するとともに、ボランティアをはじめ、多くの皆様のご協力を得て、最善・最速での復旧に努めます。
- ・本方針は、被災された市民の皆様に、本市としての復旧に向けた当面の取組や復興に際しての基本的な考え方を示すため、県の「令和元年台風第19号災害 復旧・復興方針」を踏まえ、策定するものです。なお、今後、取組の具体的な内容の追加などを順次行っていきます。
- ・中長期的な復興については、被災された地域の住民の皆様をはじめ、様々な立場の皆様のご意見をお聴きするなどしながら、「IV 今後の復興に向けた考え方」に基づき、今後、復興計画の策定を含め具体的に検討を進めていきます。

#### II 被災された方々への支援

##### 1 生活支援

###### (1) 災害相談の受付

- ・本庁及び支所に、申請や相談を受付する災害相談窓口を設けます。(地域活動支援課)
- ・孤立防止のための見守りや相談の受付等を実施します。(福祉政策課)
- ・「長野市国際交流コーナー」において、外国人の方からの相談に応じます。(観光振興課)

###### (2) 当面の住まいの確保・提供

- ・市営住宅等を提供します。(住宅課)
- ・民間賃貸住宅を借り上げ、応急仮設住宅として提供します。(住宅課)

- ・ 応急仮設住宅を建設し、提供します。(住宅課)
- (3) **住宅再建の支援**
  - ・ 住宅の応急修理や住居敷地内の障害物の除去を支援します。(建築指導課)
  - ・ 被災者生活再建支援制度による支援金を支給します。(福祉政策課)
  - ・ 被災家屋の公費解体を実施します。(生活環境課、建築指導課)
- (4) **生活資金の支援**
  - ・ 負傷又は住居、家財の損害を受けた方に、生活の再建に必要な資金を貸し付けます。(福祉政策課)
  - ・ 市税、保険料、保育料及び各種使用料等の減免等を行います。(市民税課、資産税課、収納課、国民健康保険課、高齢者活躍支援課、介護保険課、保育・幼稚園課、営業課ほか)
  - ・ 各種証明書交付等手数料を免除します。(市民税課、資産税課、収納課、市民窓口課、国民健康保険課、高齢者活躍支援課、介護保険課)
  - ・ り災証明書を交付します。(資産税課)
- (5) **災害見舞金等の支給、災害義援金等の募集・配分**
  - ・ 災害弔慰金、災害見舞金等を支給します。(福祉政策課)
  - ・ 災害義援金を募集し、長野県から配分される義援金を合わせて、被災者へ届けます。(介護保険課)
- (6) **災害廃棄物の処理**
  - ・ 被災地の災害廃棄物を官民一体のOne Nagano（ワン ナガノ）の取組等によって早期に搬出します。(廃棄物対策課、生活環境課)
  - ・ 仮置き場の災害廃棄物の適正処理を進めます。(廃棄物対策課、生活環境課、資源再生センター)
- (7) **土砂・泥、土砂混じりがれき等の撤去**
  - ・ 道路や宅地、農地等に堆積した土砂・泥、土砂混じりがれき等の早期撤去を進めます。(維持課、環境保全温暖化対策課、森林農地整備課)
- (8) **身体と心のケア**
  - ・ 保健師等が健康相談を実施するとともに、必要に応じて家庭訪問等により相談に応じます。(健康課)
  - ・ こころの不調でお困りの方へ、保健師等が相談に応じます。(健康課)
  - ・ 高齢者や障害者の困りごとの相談に応じるとともに、必要な支援を実施します。(地域包括ケア推進課、障害福祉課)
  - ・ 子どもの相談支援について、専門の相談員等が相談に応じます。(子育て支援課)

- ・児童生徒の心のケアを行うため、スクールカウンセラーを派遣します。(学校教育課)
- ・女性のための相談について、女性相談指導員が相談に応じます。(人権・男女共同参画課)
- ・犬・猫の飼育の継続が困難になった場合、必要に応じて一時的にお預かりします。(食品生活衛生課)

#### (9) 教育・保育の実施

- ・被災した小・中学校に在籍している児童生徒の通学支援を行うなど、学びの機会を確保するとともに、児童生徒に寄り添った教育を実施します。(学校教育課)
- ・被災した保育所に在籍している園児への保育を実施します。(保育・幼稚園課)
- ・被災した小学校に在籍している児童の放課後の居場所を提供します。(こども政策課)
- ・臨時託児所を開設します。(保育・幼稚園課)

#### (10) 情報発信

- ・広報紙やホームページなど様々な広報媒体を活用し、必要な情報をきめ細かく発信します。(広報広聴課)
- ・外国人の方向けに、SNSやホームページにより情報発信を行います。(観光振興課)

## 2 産業への支援

### (1) 農業

- ・農業用の施設及び機械の修繕・再建・取得を支援します。(農業政策課)
- ・代作用の種苗や肥料、資材等の購入を支援します。(農業政策課)

### (2) 商工業・雇用

- ・経営の安定に支障が生じている中小企業者に対し、融資制度を通じて資金繰りを支援します。(商工労働課)
- ・中小企業者の建物・設備等の復旧や事業の復興に向け、関係機関と連携し、国・県等の補助制度の活用を支援します。(商工労働課)
- ・国、県、関係機関の相談窓口と連携して、中小企業者の経営、金融、雇用に関する相談に対応します。(商工労働課)

### (3) 観光

- ・風評被害を払拭し、観光需要を早期に回復するため、インバウンドを含む誘客に向けて情報発信を行います。(観光振興課)



### Ⅲ 地域の復旧に向けた取組

#### 1 インフラ・ライフライン等の復旧

- ・市が管理する河川について、閉塞を解消するとともに、崩壊した護岸等を復旧します。(河川課)
- ・排水機場を復旧します。(森林農地整備課、河川課)
- ・農道、用排水路、取水施設等の土地改良施設及び林道を復旧します。(森林農地整備課)
- ・上下水道施設を復旧します。(浄水課、下水道整備課、下水道施設課、営業課)
- ・市道を復旧します。(道路課)
- ・地すべり対策を進めます。(森林農地整備課、河川課)
- ・公園施設を復旧します。(公園緑地課)

#### 2 地域における公的サービス等の復旧

- ・支所の機能を復旧します。(地域活動支援課)
- ・地域における消防の拠点を復旧します。(消・総務課、警防課)
- ・被災前の小・中学校、保育所単位での教育、保育を再開します。(教・総務課、保育・幼稚園課)
- ・被災した各種公共施設等の機能復旧を進めます。(各施設所管課)

#### 3 その他

- ・文化財の修理・保全等を支援します。(文化財課、博物館)
- ・ふるさと納税による寄附を募集し、地域の復旧等に活用します。(企画課)

### Ⅳ 今後の復興に向けた考え方

- ・復興にあたっては、「幸せ実感都市『ながの』」の実現に向けて、災害に強い持続可能なまちづくりの観点を持って取り組みます。
- ・抜本的な治水対策について、国等に要望します。
- ・今後の新たな災害発生に備え、防災・減災のあり方を検証するとともに、国・県・他自治体との連携を含め、対策を強化します。
- ・住民自治協議会等との連携により、住民等の交流やコミュニティの維持を支援します。
- ・農林業や商工業、観光業の振興を図るとともに、長期的な視点に立ち、高付加価値の創出に向けた取組を支援します。

### 3 長野市災害復興計画検討委員会

#### 長野市災害復興計画検討委員会 委員名簿

区分	氏名	団体・役職等（委嘱時点）
被災地区 代表者	金子 祐三	古里地区住民自治協議会 会長
	岩崎 隆裕	長沼地区住民自治協議会 副会長 (大町区 区長)
	早川 孝志	篠ノ井地区住民自治協議会 副会長 (篠ノ井地区区長会 会長)
	町田 修	松代地区住民自治協議会 副会長 (松代地区区長会 会長)
	竹内 守雄	若穂地区住民自治協議会 副会長 (若穂地区区長会 会長)
	善財 孝文	豊野地区住民自治協議会 会長代理 (豊野区 区長)
防災・減災	◎ 松岡 保正	国立長野工業高等専門学校 名誉教授
	不破 泰	信州大学地域防災減災センター 副センター長 地域連携部門長（教授）
	高木 芳博	長野市消防団 団長
農 業	豊田 実	ながの農業協同組合 代表理事組合長
	神農 佳人	グリーン長野農業協同組合 代表理事組合長
	小島 誠	長野市農業委員会 会長
産 業	北村 正博	長野商工会議所 会頭
	工藤 洋吉	長野市商工会 会長
	荒井 清	ながの観光コンベンションビューロー 専務理事
福 祉	○ 寺田 裕明	社会福祉法人長野市社会福祉協議会 会長
	武田 るい子	清泉女学院短期大学 教授
	柳原 静子	長野市地域女性ネットワーク 会長
オブザー バー	木村 勲	国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所 所長
	林 雅孝	長野県長野地域振興局 局長
	下里 巖	長野県長野建設事務所 所長

◎：委員長、○：副委員長

（任期：令和2年1月1日～令和3年12月31日）

## 長野市災害復興計画検討委員会 審議内容

回数	実施日	主な議題
第1回	令和2年 1月14日	<b>【報告事項】</b> ・長野市復旧・復興方針について <b>【協議事項】</b> ・長野市災害復興計画について
第2回	1月22日	災害現場視察 (長沼・豊野・古里・篠ノ井・松代・若穂地区)
第3回	2月5日	<b>【協議事項】</b> ・長野市災害復興計画（素々案）について
第4回	2月25日	<b>【報告事項】</b> ・住民意向調査の結果（速報）について <b>【協議事項】</b> ・長野市災害復興計画（素案）について ・パブリックコメントの実施について
第5回	3月27日	<b>【報告事項】</b> ・住民意向調査の最終結果について ・パブリックコメントの結果について <b>【協議事項】</b> ・長野市災害復興計画（案）について

## 4 市民参画

### 地区別意見交換会

地 区	日時（令和2年）	場 所	住民参加者数
若 穂	1月15日（水） 午後1時～	長野市若穂支所	（区長等） 21人
古 里	1月15日（水） 午後3時30分～	古里総合市民センター	（区長等） 31人
豊 野	1月18日（土） 午後1時30分～	長野市立豊野中学校	325人
篠ノ井	1月20日（月） 午後2時～	篠ノ井交流センター	（区長等） 40人
松 代	1月30日（木） 午後1時30分～	長野市松代支所	（区長等） 26人
長 沼	2月4日（火） 午後2時～	柳原交流センター	（区長等） 26人

#### 【主な議題】

- ・長野市復旧・復興方針について
- ・長野市災害復興計画の概要及び今後のスケジュールについて
- ・復旧・復興に係る意見交換



## 【主な意見】

## ■若穂地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
地域コミュニティの再構築	被災した地域公民館の改修補助	1-1-3(3)
生活インフラ整備	被災した市道や林道の早期復旧	1-2-1(1)、2-1-1(2)
治水・治山対策	千曲川の堤防改修の早期実現	1-3-1(1)(7)
	千曲川支川（保科川、赤野田川）の早期改修	1-3-1(4)(7)(10)
	排水機場の整備	1-3-1(4)(7)
	高岡川や倒木により破損した用水路や取水口等の早期復旧	1-3-1(5)、2-1-1(2)
	土砂崩れや土石流への対策	1-3-1(15)
地域防災力の強化	防災行政無線の効果的な活用方法、防災訓練での活用	1-3-3(5)(6)(7)(8)
災害対応力の強化	災害の種類に応じた避難所の指定	1-3-4(1)(2)
農林業再建	堤外農地における廃土	2-1-1(1)

## ■古里地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
生活・住宅支援	高齢者等への各種支援制度の情報伝達方法の改善	1-1-1(1)(2)
	高齢者等の生活・住宅再建等への支援	1-1-2(3)(4)(5)
	見守り、要支援者への対応	1-1-1(3)(4)(5)(6)
生活インフラ整備	停電対策	1-2-1(5)、1-3-2(4)
治水対策	千曲川の狭さく部の掘削等、総合的な対策の実施	1-3-1(1)(2)(3)(7)(9)
	浅川の内水対策の総合的検討（予防的視野を含む）	1-3-1(4)(6)(7)(10)
	田子川・浅川の内水対策としての排水機場の性能向上	1-3-1(4)(7)
地域防災力の強化	防災行政無線の個別受信、停電時の対応	1-3-3(5)(6)(7)(8)
	行政と各行政区の災害情報の共有	1-3-4(3)
災害対応力の強化	被災者の状況に応じた避難所対応	1-3-4(1)(2)
農林業の再建	農地の泥出し、農機具への補助	2-1-1(1)(3)

■豊野地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
生活インフラ整備	生活インフラの早期復旧	1-2-1(1)(2)(3)(4)
生活・住宅支援	見守り、要支援者への対応	1-1-1(3)(4)(5)(6)
	公費解体のスケジュール等の関係から住宅再建が間に合わない被災者の住宅確保	1-1-2(8)
	市営住宅の解体	1-1-2(8)
公的サービスの復旧	公民館、かがやき広場の早期復旧	1-2-2(4)(6)
	体育館等、スポーツ施設の早期復旧	1-2-2(7)
治水対策	千曲川の抜本的な治水対策の実施	1-3-1(1)(2)(3)(7)(9)
	浅川の内水対策	1-3-1(4)(6)(7)(10)
	被災した浅川排水機場等の早期復旧	1-3-1(4)(7)
	再度災害防止のための温暖化対策	1-3-1(16)
農林業の振興	被災地域のPRや農産物の販売促進	2-2-1(4)、3-1-3(2)(3)、3-2-2(1)

■篠ノ井地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
地域コミュニティの再構築	被災した地域公民館の改修補助	1-1-3(3)
治水対策	千曲川の越水対策	1-3-1(1)(2)(3)(7)
	千曲川の河道掘削、聖川のしゅんせつ等の検討	1-3-1(1)(3)(4)(7)
	被災した千曲川堤防の早期復旧	1-3-1(1)(7)
	被災した排水機場の早期復旧	1-3-1(4)
	岡田川排水機場の新規設置	1-3-1(4)(7)
地域防災力の強化	マイ・タイムラインの作成支援	1-3-1(11)、1-3-3(3)
	消防団と自主防災会の連携強化	1-3-3(3)、1-3-4(3)
	伝わりやすい情報伝達手段の工夫・検討	1-3-3(7)(8)
	市からの避難等に関する適時・適切な情報伝達	1-3-3(7)(8)、1-3-4(1)(3)
災害対応力の強化	災害対応の検証を通じた、避難所開設・運営の検証、避難所マニュアルなどの見直し	1-3-4(1)(2)
	避難所物資の保管方法の検討	1-3-4(1)(2)

## ■松代地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
治水対策	千曲川の河道掘削等、抜本的な治水対策の推進	1-3-1(1)(2)(3)(7)(9)
	災害の予防策の実施	1-3-1(1)(2)(3)(4)(6)(7)(9)(10)(11)ほか
	神田川の対策工事、パラベットの設置	1-3-1(4)(7)
	蛭川、神田川のしゅんせつ等の実施	1-3-1(4)(7)
地域防災力の強化	防災マップの利用促進、マイ・タイムラインの周知	1-3-3(5)(6)(7)(8)
	聞こえやすい防災行政無線の整備	1-3-3(7)(8)
災害対応力の強化	迅速な避難指示と情報の伝え方の検討	1-3-3(7)、1-3-4(1)(2)(3)
	避難所の在り方、場所、誘導方法などの再検討	1-3-4(1)(2)(3)

## ■長沼地区

分類	主な意見（キーワード）	第4章の主な記載箇所 （※第5章も別途参照のこと）
生活・住宅支援	住民向けの情報伝達方法の工夫	1-1-1(1)(2)
公的サービスの復旧	長沼保育園の仮設園舎のグラウンド、遊び場などの確保	1-2-2(2)
生活インフラ整備	千曲川堤防管理道路の県道化	1-2-1(2)
治水対策	千曲川の堤防強化等、抜本的な治水対策の推進	1-3-1(1)(2)(3)(7)(9)
災害対応力の強化	分かりやすい避難指示と情報の伝え方の検討	1-3-3(7)、1-3-4(1)(2)(3)
農林業再建	堤外農地の土砂等撤去	2-1-1(1)
その他	災害復興計画策定後の住民意見交換、見直しなど	（第6章「計画の推進」に記載）

## 災害復興計画策定に係る住民意向調査結果

内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の属性</li> <li>・復興に向けて重視すること</li> <li>・現在の住まいに関すること</li> <li>・今後の住まいの再建等に関すること</li> <li>・日常の心配事に関すること</li> <li>・その他、復興計画に係る意見・要望</li> </ul>
対 象	令和2年1月16日時点における全壊・大規模半壊・半壊のり災証明書発行済全世界帯
調 査 方 法	返信用封筒を同封した調査票郵送方式
実 施 期 日	令和2年1月27日～令和2年2月5日
対象世帯数	2,587世帯
回収世帯数	1,690世帯
回 収 率	65.3%
調査結果に関する補足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。</li> <li>・意向調査への回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。</li> </ul>

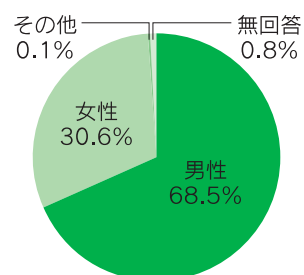


## 【調査結果】

## I あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。】

	合計	男性	女性	その他	無回答
回答数	1,690	1,158	517	2	13
割合	100.0%	68.5%	30.6%	0.1%	0.8%

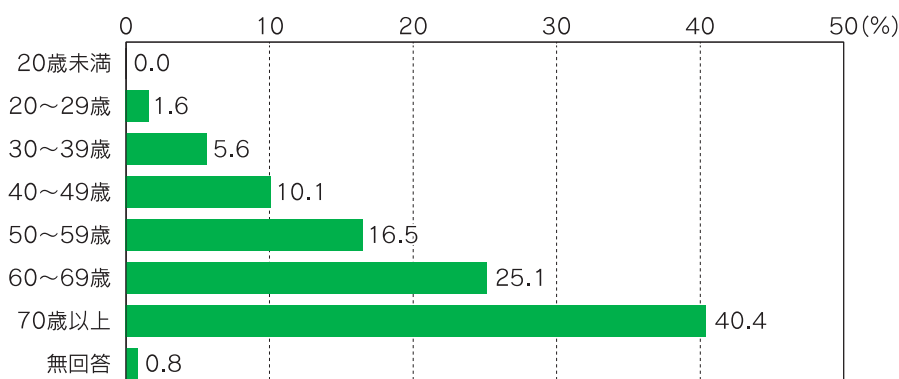


回答者の性別は、「男性」(68.5%)が約7割、「女性」(30.6%)が約3割

問2 あなたの年齢(年代)を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。】

	合計	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
回答数	1,690	0	27	94	171	279	424	682	13
割合	100.0%	0.0%	1.6%	5.6%	10.1%	16.5%	25.1%	40.4%	0.8%

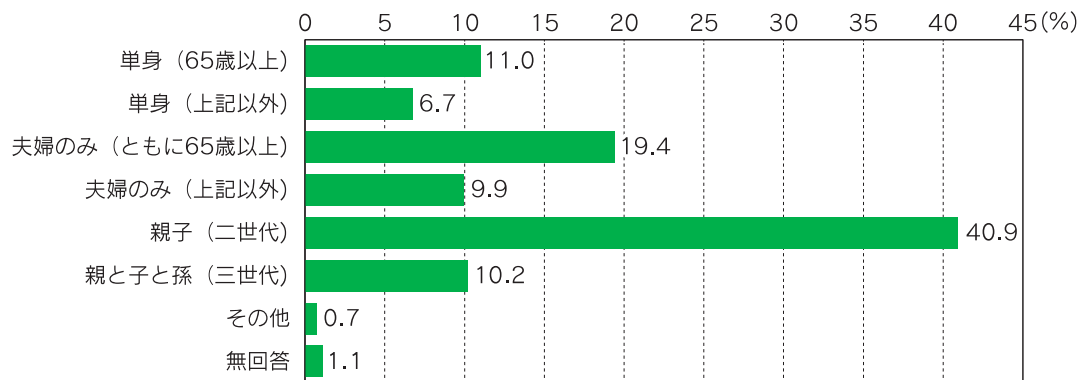
回答者の年代は、「70歳以上」(40.4%)が約4割と最多。次に、「60～69歳」(25.1%)、「50～59歳」(16.5%)と続いている。



問3 あなたの世帯構成を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	合計	単身 (65歳以上)	単身 (上記以外)	夫婦のみ (ともに65歳以上)	夫婦のみ (上記以外)	親子 (二世代)	親と子と孫 (三世代)	その他	無回答
回答数	1,690	186	114	328	167	692	172	12	19
割合	100.0%	11.0%	6.7%	19.4%	9.9%	40.9%	10.2%	0.7%	1.1%

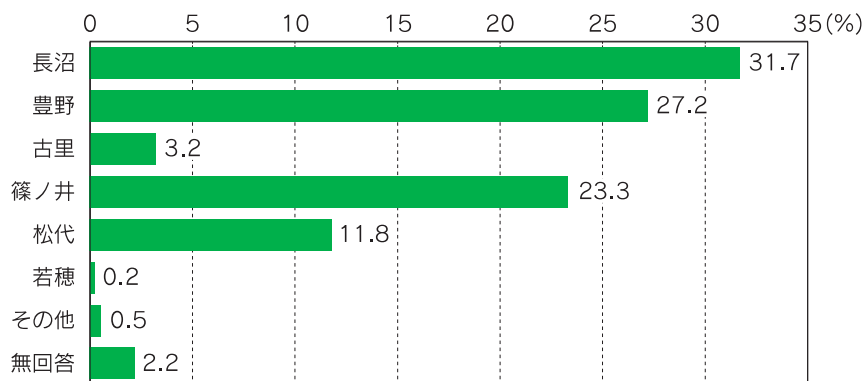
世帯構成は、「親子（二世代）」（40.9%）が約4割と最多。次に、「夫婦のみ（ともに65歳以上）」（19.4%）、「単身（65歳以上）」（11.0%）、「親と子と孫（三世代）」（10.2%）と続いている。



問4 令和元年東日本台風発生当時（令和元年10月）のあなたのお住まいの住所の郵便番号を教えてください。【四角の中に郵便番号を記入してください。】

	合計	長沼	豊野	古里	篠ノ井	松代	若穂	その他	無回答
回答数	1,690	536	459	54	393	199	3	9	37
割合	100.0%	31.7%	27.2%	3.2%	23.3%	11.8%	0.2%	0.5%	2.2%

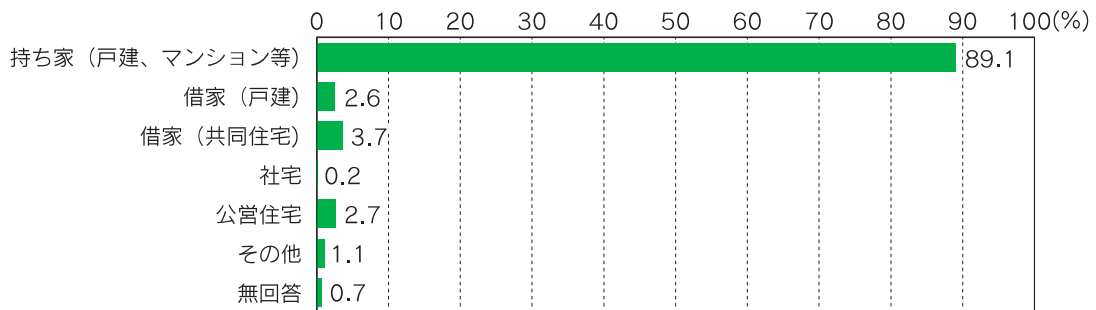
令和元年東日本台風発生当時の住まいは、「長沼」（31.7%）が3割を超え最多。次に、「豊野」（27.2%）、「篠ノ井」（23.3%）、「松代」（11.8%）と続いている。



問5-1 令和元年東日本台風発生当時（令和元年10月）のあなたのお住まいの住居形態を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	合計	持ち家 (戸建、マンション等)	借家 (戸建)	借家 (共同住宅)	社宅	公営住宅	その他	無回答
回答数	1,690	1,505	44	62	4	45	18	12
割合	100.0%	89.1%	2.6%	3.7%	0.2%	2.7%	1.1%	0.7%

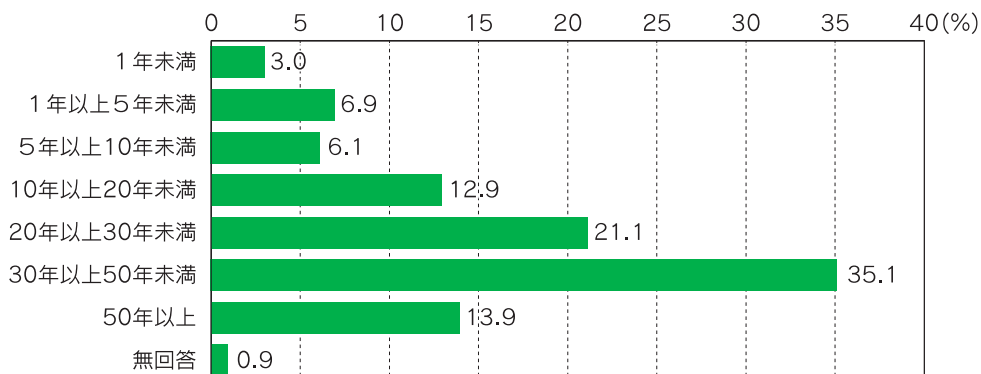
令和元年東日本台風発生当時の住居形態は、「持ち家（戸建、マンション等）」（89.1%）が約9割となる。



問5-2 令和元年東日本台風発生当時（令和元年10月）のあなたのお住まいの居住年数を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。】

	合計	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 50年未満	50年以上	無回答
回答数	1,690	51	117	103	218	357	594	235	15
割合	100.0%	3.0%	6.9%	6.1%	12.9%	21.1%	35.1%	13.9%	0.9%

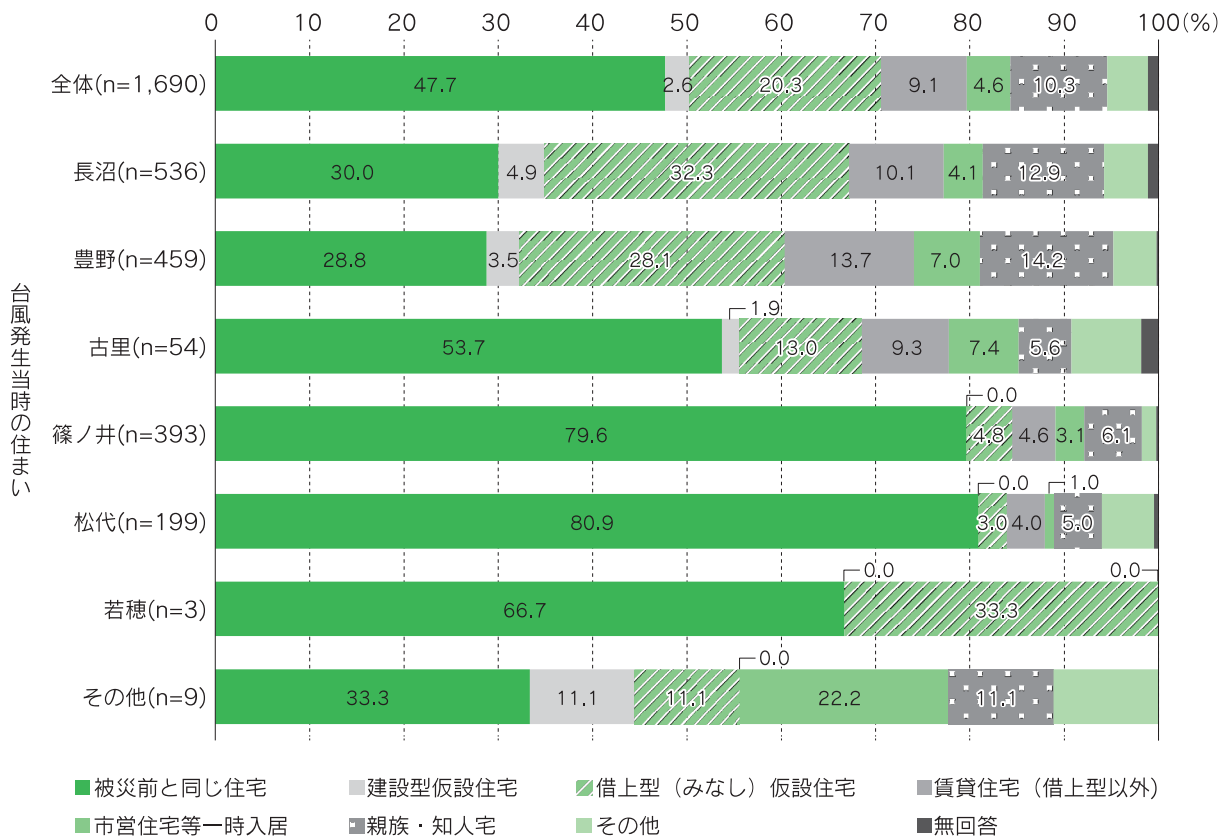
令和元年東日本台風発生当時の住まいでの居住年数は、「30年以上50年未満」（35.1%）が約4割と最多。次に、「20年以上30年未満」（21.1%）、「50年以上」（13.9%）、「10年以上20年未満」（12.9%）と続いている。



問6 令和2年1月末現在のあなたのお住まいの住居形態を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	合計	被災前と同じ住宅	借上型(みなし)仮設住宅	親族・知人宅	賃貸住宅(借上型以外)	市営住宅等一時入居	建設型仮設住宅	その他	無回答
回答数	1,690	806	343	174	153	78	44	73	19
割合	100.0%	47.7%	20.3%	10.3%	9.1%	4.6%	2.6%	4.3%	1.1%

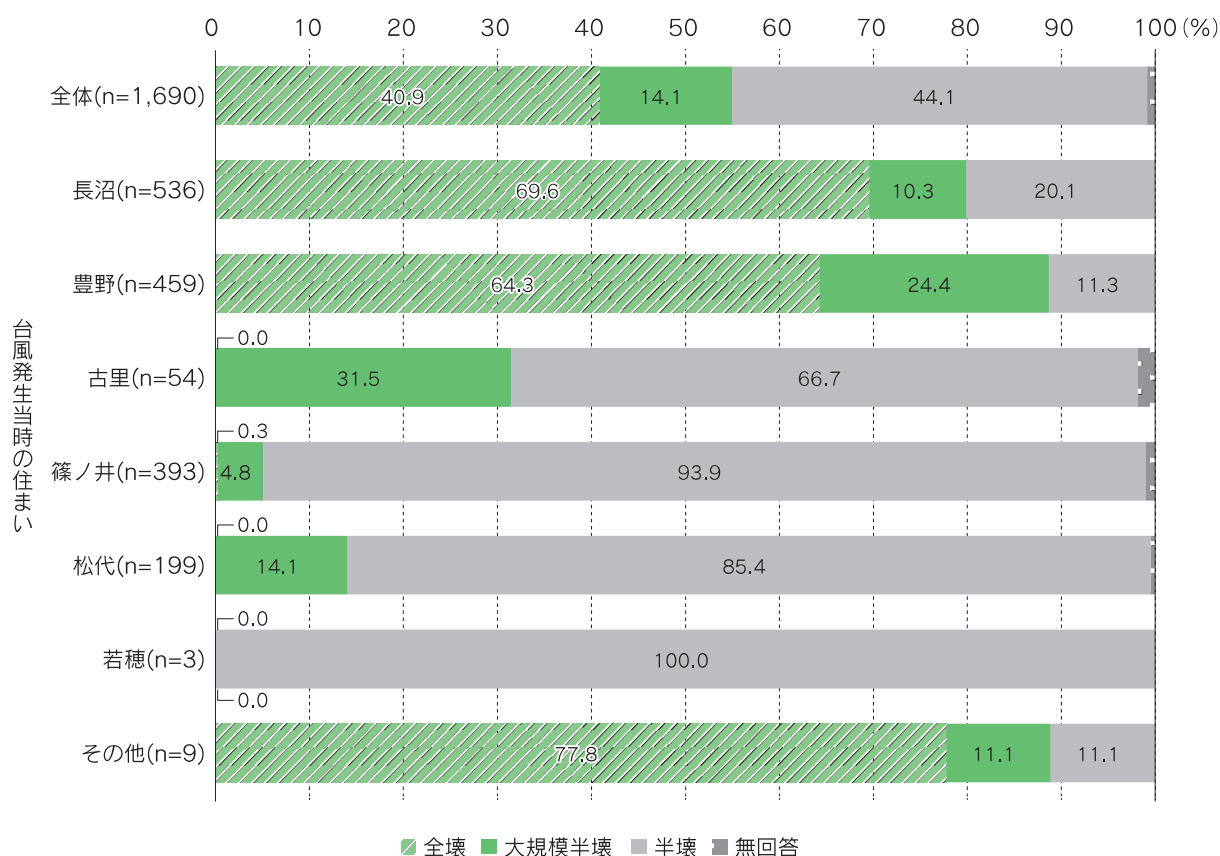
- ・令和2年1月末現在の住まいの住居形態は、「被災前と同じ住宅」(47.7%)が約5割と最多。次に、「借上型(みなし)仮設住宅」、「親族・知人宅」、「賃貸住宅借上型以外」(9.1%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「被災前と同じ住宅」は、「長沼(30.0%)」、「豊野」(28.8%)では約3割となり、「借上型(みなし)仮設住宅」が「長沼(32.3%)」、「豊野」(28.1%)で約3割とほぼ同じ割合となっている。「被災前と同じ住宅」については、「古里」(53.7%)で約6割、「篠ノ井」(79.6%)、「松代」(80.9%)で約8割となっている。
- ・被害状況別にみると、「全壊」では、「被災前と同じ住宅」(19.1%)が約2割となり、「借上型(みなし)仮設住宅」(37.5%)が約4割と最も多くなっている。「大規模半壊」では、「被災前と同じ住宅」(33.2%)が約3割となり、次に「借上型(みなし)仮設住宅」(18.1%)、「親族・知人宅」(17.6%)と続いている。「半壊」では、「被災前と同じ住宅」(79.1%)が約8割となっている。



問7 あなたのお住まいの被害状況を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	合計	全壊	大規模半壊	半壊	無回答
回答数	1,690	691	238	746	15
割合	100.0%	40.9%	14.1%	44.1%	0.9%

- ・住まいの被害状況は、「半壊」(44.1%)が4割を超え、「全壊」(40.9%)が約4割、「大規模半壊」(14.1%)は、1割を超えている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「全壊」(69.6%)が約7割となっている。次に、「半壊」(20.1%)、「大規模半壊」(10.3%)と続いている。「豊野」では、「全壊」(64.3%)と6割を超えている。また、「大規模半壊」(24.4%)も2割を超え、「全壊」、「大規模半壊」を合計すると約9割となっている。「古里」では、「半壊」(66.7%)が約7割と最多。次に、「大規模半壊」(31.5%)となっている。「篠ノ井」では、「半壊」(93.9%)が9割を超えている。「松代」では、「半壊」(85.4%)が約9割となり、「大規模半壊」(14.1%)が1割を超えている。「若穂」では、「半壊」(100.0%)が全てとなっている。

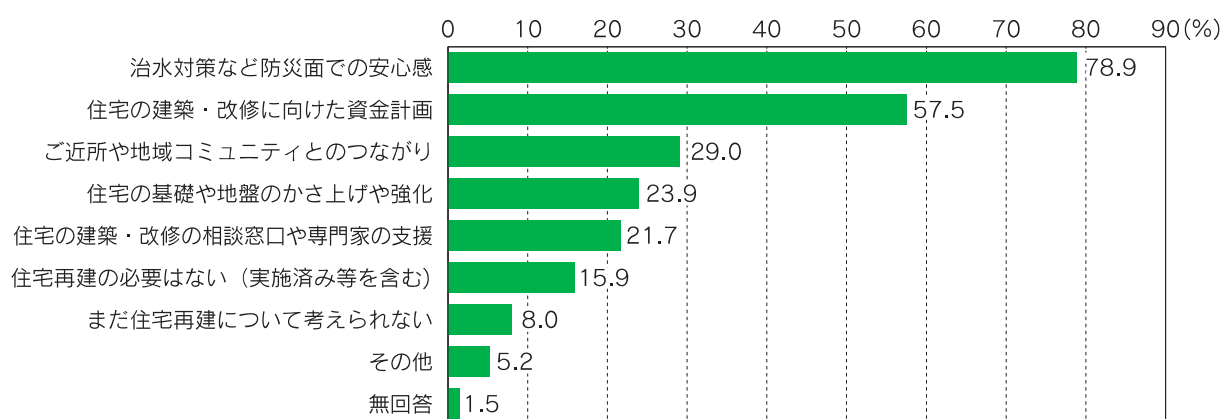


## II 復興について

問8 被災した住宅の再建に向けて、あなたが重視することを教えてください。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	治水対策など防災面での安心感	住宅の建築・改修に向けた資金計画	ご近所や地域コミュニティとのつながり	住宅の基礎や地盤のかさ上げや強化	住宅の建築・改修の相談窓口や専門家の支援	住宅再建の必要はない（実施済み等を含む）	まだ住宅再建について考えられない	その他	無回答
回答数	1,690	1,334	971	490	404	366	269	136	88	25
割合	—	78.9%	57.5%	29.0%	23.9%	21.7%	15.9%	8.0%	5.2%	1.5%

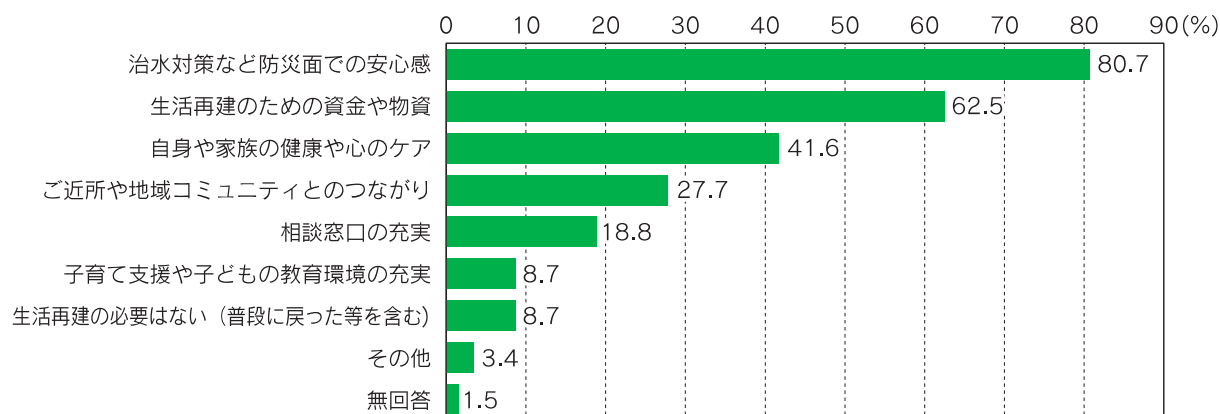
- ・被災した住宅の再建に向けて重視することは、「治水対策など防災面での安心感」（78.9%）が約8割と最多。次に、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（57.5%）、「ご近所や地域コミュニティとのつながり」（29.0%）と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「若穂」を除くいずれの地域で「治水対策など防災面での安心感」という回答が最も多くなっている。次に、「長沼」では、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（64.0%）が約6割、「ご近所や地域コミュニティとのつながり」（33.6%）が約3割と続き、「豊野」でも、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（61.2%）が約6割、「ご近所や地域コミュニティとのつながり」（33.6%）が約3割と続いている。「まだ住宅再建について考えられない」の回答も、「長沼」（10.1%）、「豊野」（8.5%）で約1割となっている。「古里」では、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（63.0%）が約6割と2番目に多く、「住宅再建の必要はない（「実施済み」、「見通しが立っている」を含む）」（25.9%）が約3割と続いている。「篠ノ井」では、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（46.1%）が約5割で2番目に多く、次に、「住宅の基礎や地盤のかさ上げや強化」（30.3%）、「住宅再建の必要はない（「実施済み」、「見通しが立っている」を含む）」（28.0%）が約3割で続いている。「松代」では、「住宅の建築・改修に向けた資金計画」（56.3%）が約6割で2番目に多く、「住宅の基礎や地盤のかさ上げや強化」（32.7%）が約3割で続いている。



問9 生活再建（被災前の落ち着いた生活）のために、あなたが重視することを教えてください。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	治水対策など防災面での安心感	生活再建のための資金や物資	自身や家族の健康や心のケア	ご近所や地域コミュニティとのつながり	相談窓口の充実	子育て支援や子どもの教育環境の充実	生活再建の必要はない（普段に戻った等を含む）	その他	無回答
回答数	1,690	1,364	1,056	703	468	317	147	147	58	26
割合	—	80.7%	62.5%	41.6%	27.7%	18.8%	8.7%	8.7%	3.4%	1.5%

- ・生活再建（被災前の落ち着いた生活）のために重視することは、「治水対策など防災面での安心感」（80.7%）が約8割と最多。次に、「生活再建のための資金や物資」（62.5%）、「自身や家族の健康や心のケア」（41.6%）と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「若穂」を除いたいずれの地域も「治水対策など防災面での安心感」が、最も多い回答となっている。次に、「生活再建のための資金や物資」、「自身や家族の健康や心のケア」と続いている。一方、「生活再建の必要はない（「普段に戻った」、「見通しが立っている」を含む）」は、「古里」（16.7%）、「篠ノ井」（17.3%）で約2割となっている。



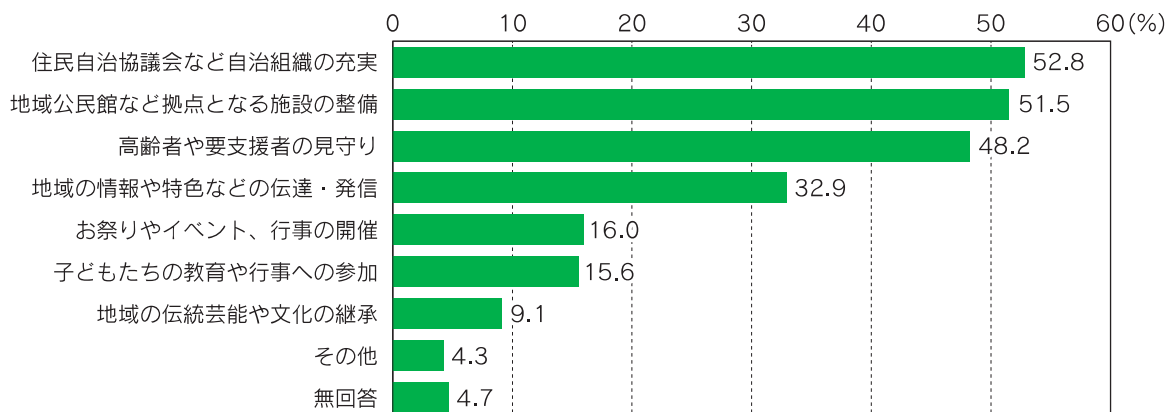


問10 地域コミュニティの維持・再生のために、あなたが重視することを教えてください。

【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対 象	住民自治協議会など自治組織の充実	地域公民館など拠点となる施設の整備	高齢者や要支援者の見守り	地域の情報や特色などの伝達・発信	お祭りやイベント、行事の開催	子どもたちの教育や行事への参加	地域の伝統芸能や文化の継承	その他	無回答
回答数	1,690	893	871	814	556	270	264	154	73	80
割 合	—	52.8%	51.5%	48.2%	32.9%	16.0%	15.6%	9.1%	4.3%	4.7%

- ・地域コミュニティの維持・再生のために重視することは、「住民自治協議会など自治組織の充実」(52.8%)、「地域公民館など拠点となる施設の整備」(51.5%)、「高齢者や要支援者の見守り」(48.2%)の3項目が約5割と多くなっている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「地域公民館など拠点となる施設の整備」(56.0%)が約6割と最多。次に、「住民自治協議会など自治組織の充実」(53.7%)、「高齢者や要支援者の見守り」(43.7%)と続いている。「豊野」では、「地域公民館など拠点となる施設の整備」(54.2%)、「住民自治協議会など自治組織の充実」(52.7%)、「高齢者や要支援者の見守り」(48.8%)の3項目が約5割と多い。「古里」では、「住民自治協議会など自治組織の充実」(61.1%)が約6割と最多。次に、「高齢者や要支援者の見守り」(48.1%)、「地域の情報や特色などの伝達・発信」(38.9%)と続いている。「篠ノ井」では、「地域公民館など拠点となる施設の整備」(50.6%)、「住民自治協議会など自治組織の充実」(49.1%)、「高齢者や要支援者の見守り」(48.6%)の3項目が約5割と多くなっている。「松代」では、「高齢者や要支援者の見守り」(56.8%)と「住民自治協議会など自治組織の充実」(55.8%)が約6割と多い。次に、「地域公民館など拠点となる施設の整備」(47.2%)と続いている。

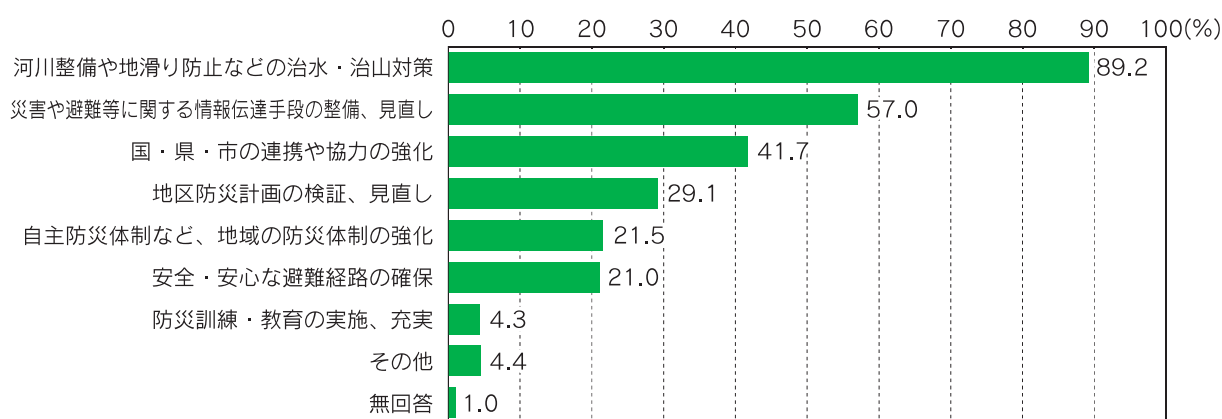




問11 防災・減災の強化、災害に強いまちづくりに向け、何が必要だと思いますか。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策	災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し	国・県・市の連携や協力の強化	地区防災計画の検証、見直し	自主防災体制など、地域の防災体制の強化	安全・安心な避難経路の確保	防災訓練・教育の実施、充実	その他	無回答
回答数	1,690	1,507	963	705	491	363	355	73	74	17
割合	—	89.2%	57.0%	41.7%	29.1%	21.5%	21.0%	4.3%	4.4%	1.0%

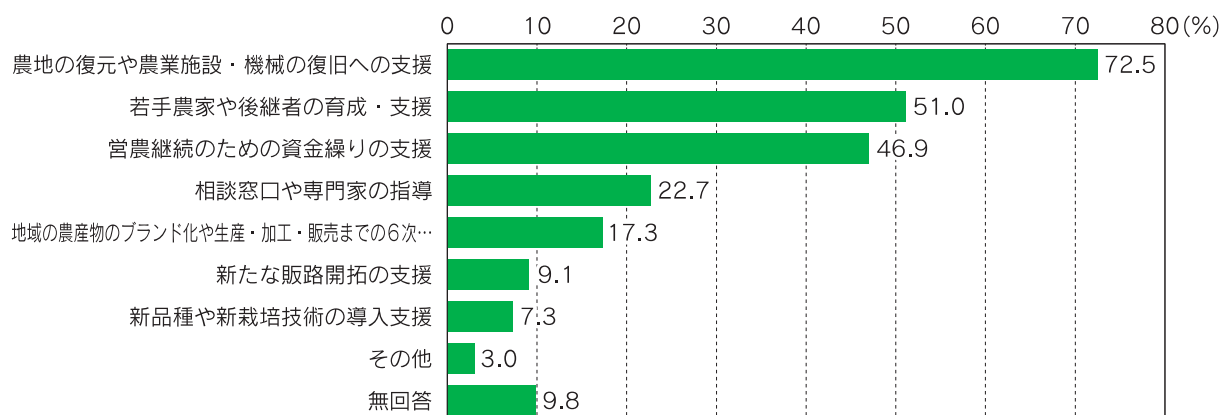
- ・ 防災・減災の強化、災害に強いまちづくりに向け必要だと思うことは、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(89.2%)が約9割と最多。次に、「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(57.0%)、「国・県・市の連携や協力の強化」(41.7%)と続いている。
- ・ 台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(91.0%)が約9割と最多。次に、「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(48.7%)、「国・県・市の連携や協力の強化」(47.8%)と続いている。「豊野」では、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(91.7%)が約9割と最多。次に、「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(60.6%)、「国・県・市の連携や協力の強化」(49.9%)と続いている。「古里」では、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(83.3%)、「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(83.3%)が同率で約8割と最多。次に、「国・県・市の連携や協力の強化」(31.5%)が続いている。「篠ノ井」では、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(87.3%)が約9割と最多。次に、「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(62.3%)、「安全・安心な避難経路の確保」(34.6%)と続いている。「松代」では、「河川整備や地滑り防止などの治水・治山対策」(87.9%)が約9割と最多。2番目に「災害や避難等に関する情報伝達手段の整備、見直し」(57.3%)となり、次に、「地区防災計画の検証、見直し」(35.7%)、「国・県・市の連携や協力の強化」(34.2%)と続いている。



問12 地域の農業の復興や発展のために、何が必要だと思いますか。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	農地の復元や農業施設・機械の復旧への支援	若手農家や後継者の育成・支援	営農継続のための資金繰りの支援	相談窓口や専門家の指導	地域の農産物のブランド化や生産・加工・販売までの6次産業化への支援	新たな販路開拓の支援	新品種や新栽培技術の導入支援	その他	無回答
回答数	1,690	1,226	862	793	384	293	153	123	51	166
割合	—	72.5%	51.0%	46.9%	22.7%	17.3%	9.1%	7.3%	3.0%	9.8%

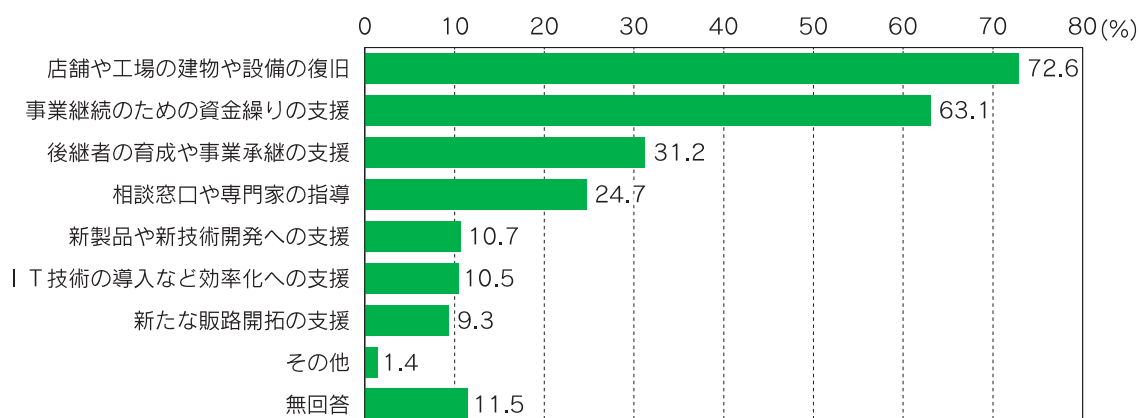
- ・地域の農業の復興や発展のために必要なこととしては、「農地の復元や農業施設・機械の復旧への支援」(72.5%)が約7割と最多。次に、「若手農家や後継者の育成・支援」(51.0%)、「営農継続のための資金繰りの支援」(46.9%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別に見ると、いずれの地域も、同じ傾向にある。「農地の復元や農業施設・機械の復旧への支援」については、いずれの地域も6割以上で最多。特に、「長沼」(79.1%)では約8割となっている。



問13 被災した商業・工業の復興・発展のために、何が必要だと思いますか。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	店舗や工場の建物や設備の復旧	事業継続のための資金繰りの支援	後継者の育成や事業承継の支援	相談窓口や専門家の指導	新製品や新技術開発への支援	IT技術の導入など効率化への支援	新たな販路開拓の支援	その他	無回答
回答数	1,690	1,227	1,067	527	418	180	177	157	24	195
割合	—	72.6%	63.1%	31.2%	24.7%	10.7%	10.5%	9.3%	1.4%	11.5%

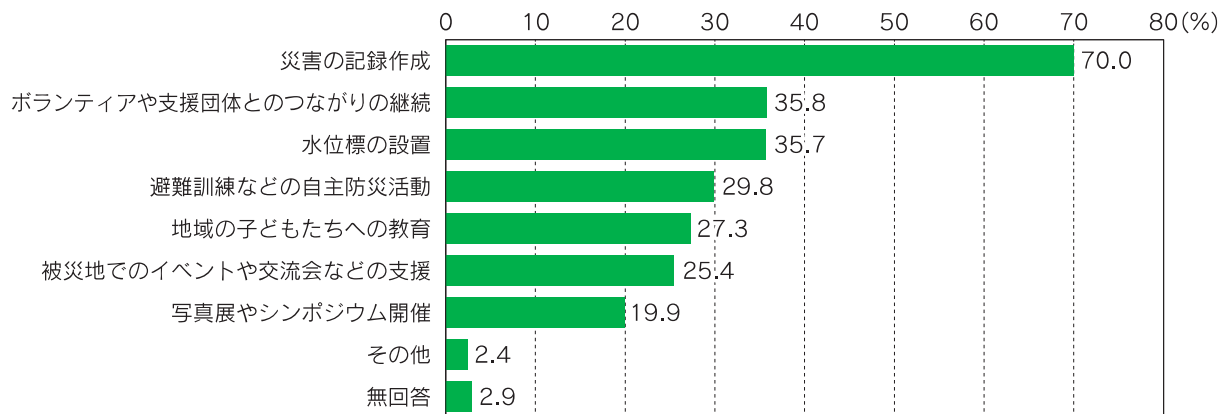
- ・被災した商業・工業の復興・発展のために必要なことは、「店舗や工場の建物や設備の復旧」(72.6%)が約7割と最多。次に、「事業継続のための資金繰りの支援」(63.1%)、「後継者の育成や事業承継の支援」(31.2%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、いずれの地域も同じ傾向にある。「店舗や工場の建物や設備の復旧」については、いずれも6割以上と最多。特に、「豊野」(79.3%)は約8割となっている。また、「後継者の育成や事業承継の支援」については、「松代」(36.7%)で約4割と、他の地区よりもやや高い回答割合となっている。



問14 地域で災害の記憶をつないでいくために、何が必要だと思いますか。【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対 象	災害の記録作成	ボランティアや支援団体とのつながりの継続	水位標の設置	避難訓練などの自主防災活動	地域の子どもたちへの教育	被災地でのイベントや交流会などの支援	写真展やシンポジウム開催	その他	無回答
回答数	1,690	1,183	605	604	503	462	430	337	41	49
割合	—	70.0%	35.8%	35.7%	29.8%	27.3%	25.4%	19.9%	2.4%	2.9%

- ・地域で災害の記憶をつないでいくために必要だと思うことは、「災害の記録作成」(70.0%)が7割と最多。次に、「ボランティアや支援団体とのつながりの継続」(35.8%)、「水位標の設置」(35.7%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「若穂」を除いたいずれの地域で、「災害の記録作成」が約7割と最多。「ボランティアや支援団体とのつながりの継続」が2番目に多い地域は、「長沼」(39.4%)、「古里」(38.9%)となる。「水位標の設置」が2番目に多い地域は、「豊野」(40.5%)、「篠ノ井」(40.2%)となり、「豊野」では「ボランティアや支援団体とのつながりの継続」(40.1%)がほぼ同率で3番目に多くなっている。また、「水位標の設置」が2番目に多い地域は、「松代」(34.7%)となっている。さらに、「避難訓練などの自主防災活動」については、「篠ノ井」(38.7%)、「松代」(34.7%)で3割を超え、他の地域よりもやや高い回答割合となっている。「地域の子どもたちへの教育」については、「長沼」(30.2%)、「古里」(33.3%)で3割を超え、他の地域よりもやや高い回答割合となっている。

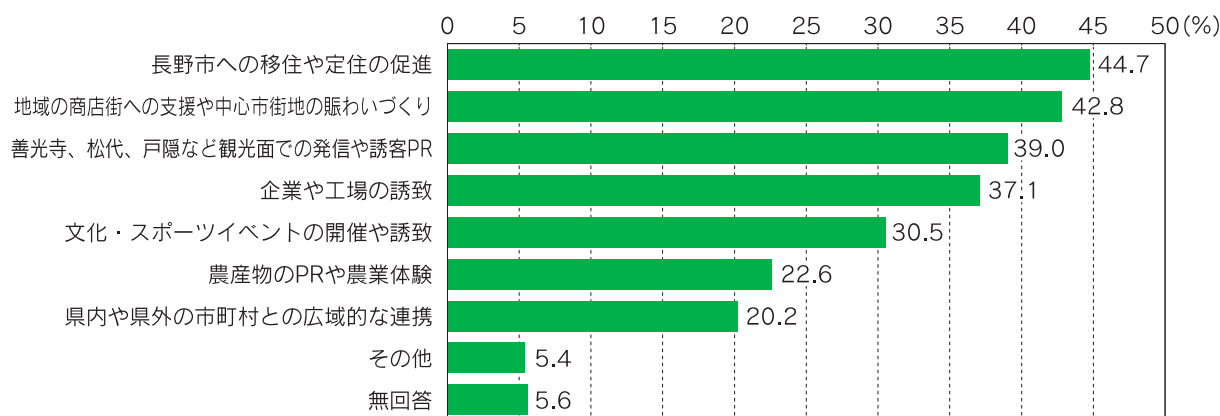


問15 長野市の賑わいを高め、地域経済を底上げしていくために、何が必要だと思いますか。

【当てはまる番号に3つまで○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	長野市への移住や定住の促進	地域の商店街への支援や中心市街地の賑わいづくり	善光寺、松代、戸隠など観光面での発信や誘客PR	企業や工場の誘致	文化・スポーツイベントの開催や誘致	農産物のPRや農業体験	県内や県外の市町村との広域的な連携	その他	無回答
回答数	1,690	755	723	659	627	515	382	342	91	94
割合	—	44.7%	42.8%	39.0%	37.1%	30.5%	22.6%	20.2%	5.4%	5.6%

- ・長野市の賑わいを高め、地域経済を底上げしていくために必要なことは、「長野市への移住や定住の促進」(44.7%)が4割を超え、最多。次に、「地域の商店街への支援や中心市街地の賑わいづくり」(42.8%)、「善光寺、松代、戸隠など観光面での発信や誘客PR」(39.0%)、「企業や工場の誘致」(37.1%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「長野市への移住や定住の促進」(52.6%)が約5割と最も多く、次に「企業や工場の誘致」(42.4%)が続いている。「豊野」では、「地域の商店街への支援や中心市街地の賑わいづくり」(51.2%)が約5割と最も多く、次に「長野市への移住や定住の促進」(45.3%)が続いている。「古里」では、「長野市への移住や定住の促進」(55.6%)が約6割と最も多く、次に「善光寺、松代、戸隠など観光面での発信や誘客PR」(38.9%)が続いている。「篠ノ井」では、「善光寺、松代、戸隠など観光面での発信や誘客PR」(46.3%)が約5割と最も多く、次に「地域の商店街への支援や中心市街地の賑わいづくり」(43.2%)が続いている。「松代」では「善光寺、松代、戸隠など観光面での発信や誘客PR」(72.4%)が約7割と最も多く、次に「地域の商店街への支援や中心市街地の賑わいづくり」(43.2%)が続いている。

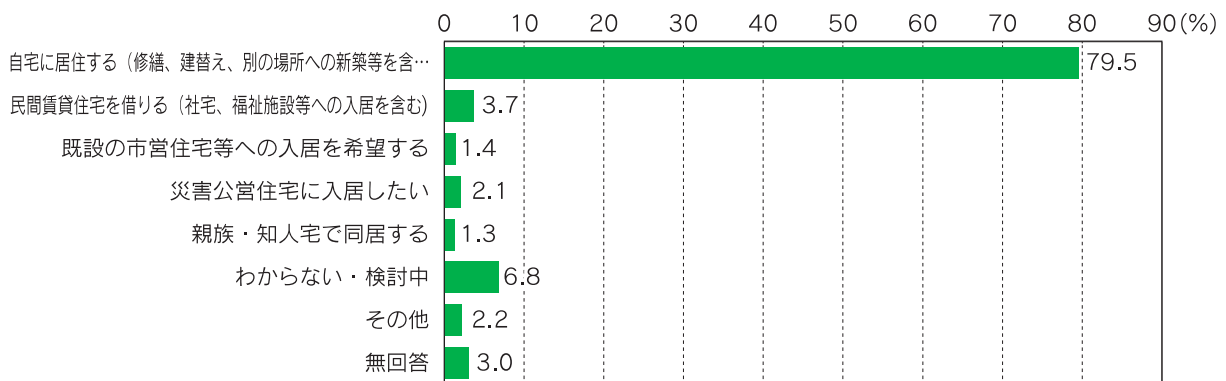


### Ⅲ 住まいの再建について

問16 あなたのお住まいの再建の見通し・希望について教えてください。【最も当てはまる番号に1つ○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	合計	自宅に居住する（修繕、建替え、別の場所への新築等を含む）	民間賃貸住宅を借りる（社宅、福祉施設等への入居を含む）	既設の市営住宅等への入居を希望する	災害公営住宅に入居したい	親族・知人宅で同居する	わからない・検討中	その他	無回答
回答数	1,690	1,343	63	23	36	22	115	38	50
割合	100.0%	79.5%	3.7%	1.4%	2.1%	1.3%	6.8%	2.2%	3.0%

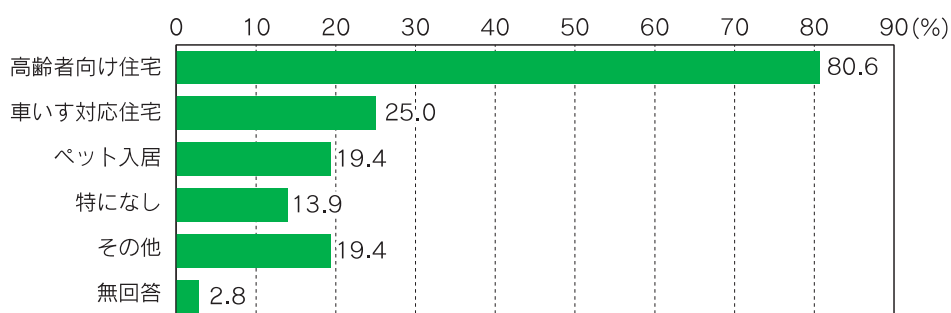
- ・ 住まいの再建の見通し・希望については、「自宅に居住する（修繕、建替え、別の場所への新築等を含む）」（79.5%）が約8割と最多。次に、「わからない・検討中」（6.8%）、「民間賃貸住宅を借りる（社宅、福祉施設等への入居を含む）」（3.7%）と続いている。
- ・ 台風発生当時の住まい別にみると、「若穂」を除く全ての地域で、「自宅に居住する（修繕、建替え、別の場所への新築等を含む）」が7割を超え、最多。また、「わからない・検討中」という回答は、「長沼」（9.5%）、「豊野」（8.3%）で約1割と他の地域よりも高い回答割合となっている。
- ・ 現在の住まいでみると、「被災前と同じ住宅」では「自宅に居住する（修繕、建替え、別の場所への新築等を含む）」（90.7%）が約9割と最多。「自宅に居住する（修繕、建替え、別の場所への新築等を含む）」という回答は、「建設型仮設住宅」（65.9%）、「借上型（みなし）仮設住宅」（66.8%）、「賃貸住宅（借上型以外）」（64.7%）では6割台、「親族・知人宅」（75.3%）では7割台とやや低い回答割合となっている。また、「わからない・検討中」という回答は、「借上型（みなし）仮設住宅」（16.0%）、「賃貸住宅（借上型以外）」（11.1%）で1割を超えている。



問17 問16で「災害公営住宅に入居したい」と回答された方にお聞きします。実際に災害公営住宅を整備した場合、入居に当たり、特別な配慮についての希望を教えてください。【当てはまる番号の全てに○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対 象	高齢者向け住宅	車いす対応住宅	ペット入居	特になし	その他	無回答
回答数	36	29	9	7	5	7	1
割 合	—	80.6%	25.0%	19.4%	13.9%	19.4%	2.8%

問16で「災害公営住宅に入居したい」と回答された方で、入居に当たり、特別な配慮についての希望は、「高齢者向け住宅」(80.6%)が約8割と最多。次に、「車いす対応住宅」(25.0%)、「ペット入居」(19.4%)と続いている。





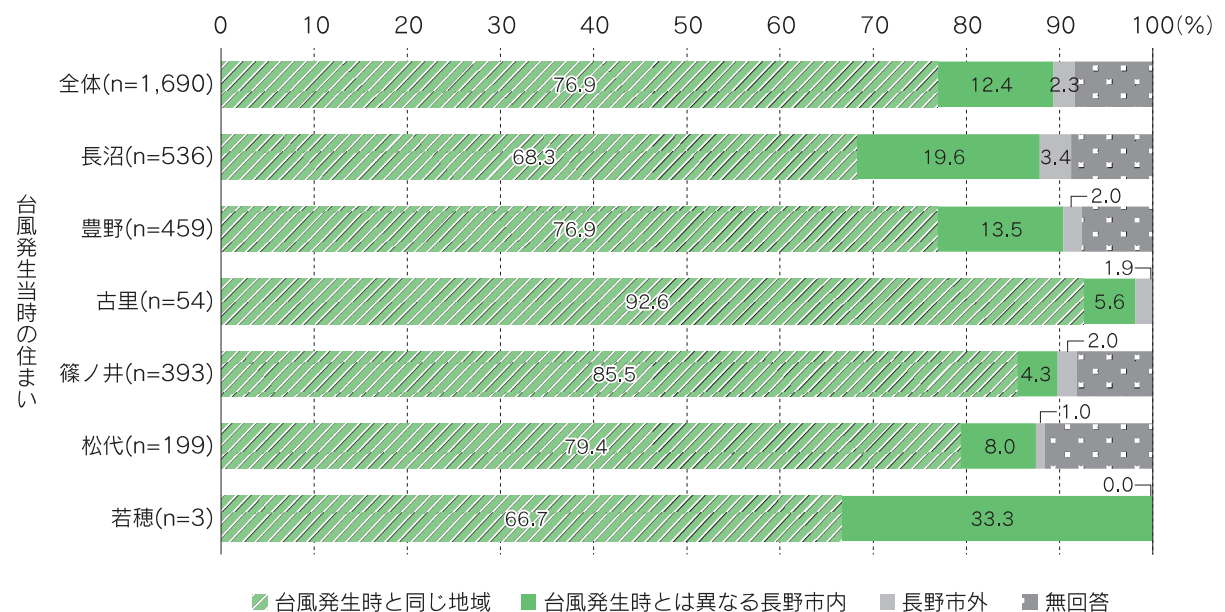
問18 あなたの今後居住する予定、または居住を希望する地区・地域を教えてください。【当てはまる番号に1つ○をつけてください。長野市外の場合は、都道府県又は市町村名を記入してください。】

	合計	古里地区	長沼地区	篠ノ井地区	松代地区	若穂地区	豊野地区	左記以外の長野市内の他地区	長野市外	無回答
回答数	1,690	69	372	355	158	4	375	168	41	148
割合	100.0%	4.1%	22.0%	21.0%	9.3%	0.2%	22.2%	9.9%	2.4%	8.8%

今後居住する予定、または居住を希望する地区・地域を、台風発生当時の住まい別に集計すると、下記のとおりとなる。

	合計	台風発生時と同じ地域	台風発生時とは異なる長野市内	長野市外	無回答
回答数	1,644	1,265	204	38	137
割合	100.0%	76.9%	12.4%	2.3%	8.3%

- ・ 今後居住する予定、または居住を希望する地区・地域については、「台風発生時と同じ地域」(76.9%)が約8割と最多。次に、「台風発生時とは異なる長野市内」(12.4%)、「長野市外」(2.3%)と続いている。
- ・ 台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「台風発生時と同じ地域」(68.3%)が約7割となり、「台風発生時とは異なる長野市内」(19.6%)が約2割、「無回答」(8.8%)が約1割となる。「豊野」では、「台風発生時と同じ地域」(76.9%)が約8割となり、「台風発生時とは異なる長野市内」(13.5%)、「無回答」(7.6%)が1割前後となる。「古里」では、「台風発生時と同じ地域」(92.6%)が9割を超えている。「篠ノ井」では、「台風発生時と同じ地域」(85.5%)が8割を超え、「無回答」(8.1%)が約1割となる。「松代」では、「台風発生時と同じ地域」(79.4%)が約8割となり、「台風発生時とは異なる長野市内」(8.0%)、「無回答」(11.6%)が約1割となる。

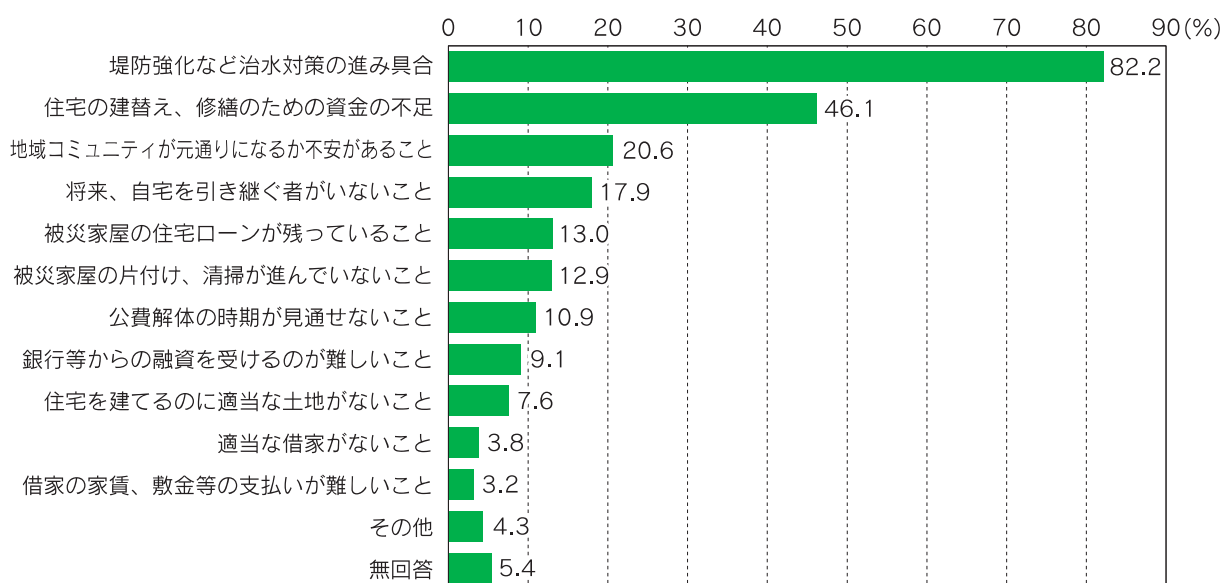




問19 あなたのお住まいの再建に向けて課題と思うことを教えてください。【当てはまる番号の全てに○をつけてください。その他の場合は、その内容を記入してください。】

	対象	堤防強化など治水対策の進み具合	住宅の建替え、修繕のための資金の不足	地域コミュニティが元通りになるか不安があること	将来、自宅を引き継ぐ者がいないこと	被災家屋の住宅ローンが残っていること	被災家屋の片付け、清掃が進んでいないこと	公費解体の時期が見通せないこと	銀行等からの融資を受けるのが難しいこと	住宅を建てるのに適当な土地がないこと	適当な借家がないこと	借家の家賃、敷金等の支払いが難しいこと	その他	無回答
回答数	1,690	1,390	779	348	302	219	218	184	154	129	64	54	73	91
割合	—	82.2%	46.1%	20.6%	17.9%	13.0%	12.9%	10.9%	9.1%	7.6%	3.8%	3.2%	4.3%	5.4%

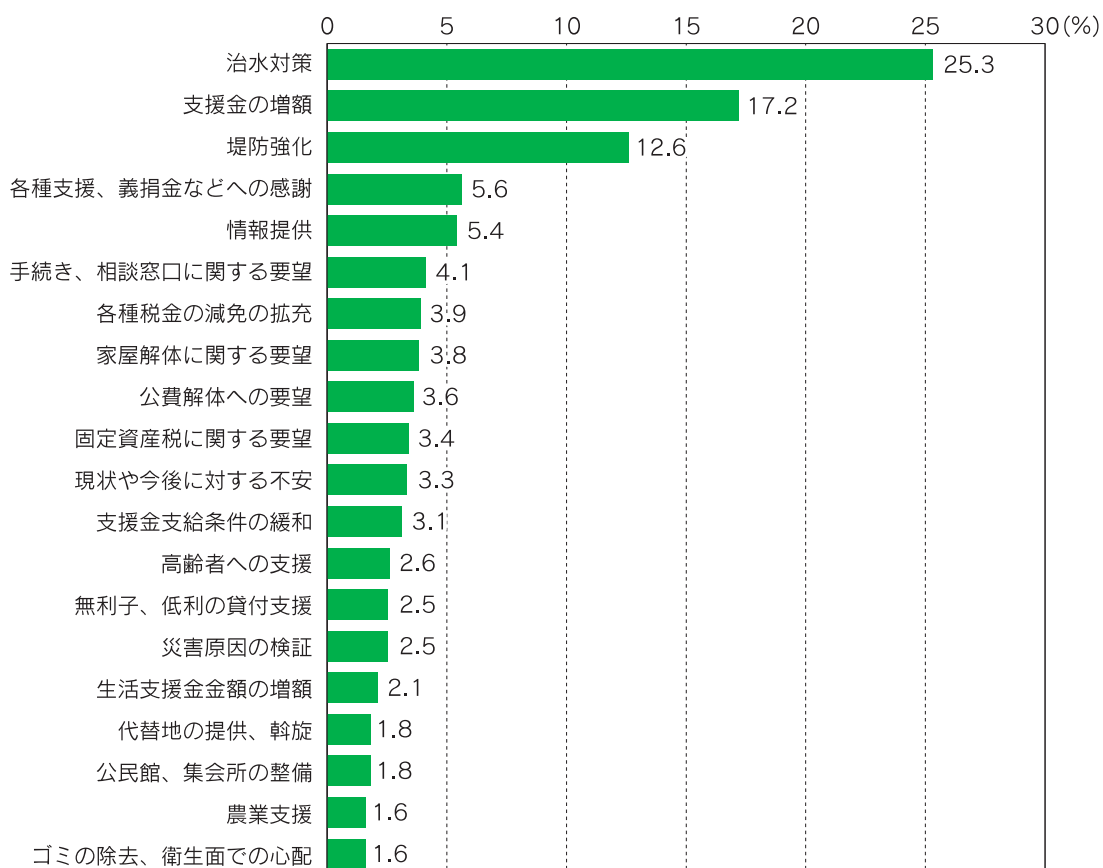
- ・住まいの再建に向けて課題は、「堤防強化など治水対策の進み具合」(82.2%)が約8割と最多。次に、「住宅の建替え、修繕のための資金の不足」(46.1%)、「地域コミュニティが元通りになるか不安があること」(20.6%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「若穂」を除くいずれの地域で、「堤防強化など治水対策の進み具合」が最も多く、次に「住宅の建替え、修繕のための資金の不足」が2番目に多くなっている。3番目に多い回答としては、「地域コミュニティが元通りになるか不安があること」となる地域が「豊野」(31.2%)、「長沼」(30.0%)で約3割となっている。「被災家屋の片付け、清掃が進んでいないこと」となる地域が、「古里」(27.8%)、「篠ノ井」(13.5%)となる。「将来、自宅を引き継ぐ者がいないこと」となる地域が、「松代」(19.1%)となっている。



問20 問19に関して、あなたが必要だと思う行政等からの支援がありましたら、自由にご記入ください。

	合計	記入あり	記入なし
回答数	1,690	609	1,081
割合	100.0%	36.0%	64.0%

- ・必要だと思う行政等からの支援については、「記入あり」(36.0%)が約4割となる。
- ・内容を類型化すると、「治水対策」(25.3%)が2割を超え、最多。次に、「支援金の増額」(17.2%)、「堤防強化」(12.6%)と続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「長沼」では、「治水対策」(18.5%)、「支援金の増額」(15.9%)、「堤防強化」(17.4%)という回答がほぼ同じ割合となり、3項目以外の回答も他の地域よりも多い傾向にある。「豊野」、「古里」、「松代」では「治水対策」、「支援金の増額」の2項目が2割を超え多い回答となっている。また、「篠ノ井」では、「治水対策」(29.8%)が約3割と最も多い回答となっている。

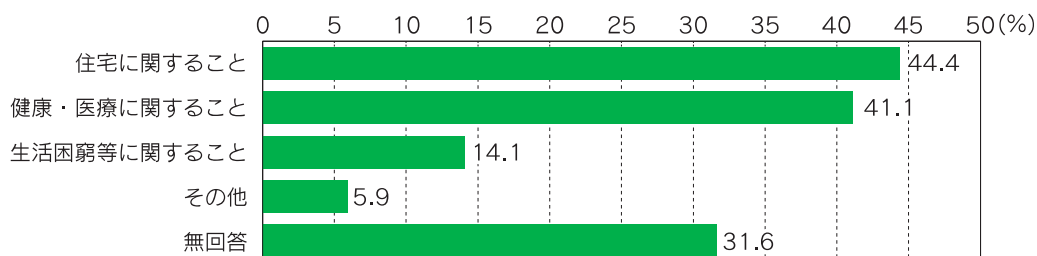


#### Ⅳ 日常の心配事について

問21 あなたの日常におけるご心配事を教えてください。【当てはまる番号の全てに○をつけてください。可能な範囲でその内容を具体的に記入してください。】

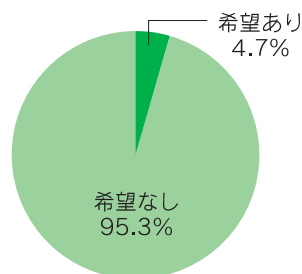
	対象	住宅に関する こと	健康・医療に 関すること	生活困窮等に 関すること	その他	無回答
回答数	1,690	751	695	239	100	534
割合	—	44.4%	41.1%	14.1%	5.9%	31.6%

- ・日常における心配事は、「住宅に関すること」(44.4%)が4割を超え最多。次に、「健康・医療に関すること」(41.1%)が約4割で続いている。
- ・台風発生当時の住まい別にみると、「豊野」、「長沼」では、「住宅に関すること」が約5割と最多。「古里」、「篠ノ井」では、「住宅に関すること」と「健康・医療に関すること」が約4割でほぼ同じ割合となっている。「松代」では、「健康・医療に関すること」が約5割と最多。



#### [相談の希望]

	合計	希望あり	希望なし
回答数	1,690	80	1,610
割合	100.0%	4.7%	95.3%



相談を希望された方は、80名、4.7%となっている。

## V その他

問22 長野市の復興に向けた計画づくりなどに関して、ご意見やご要望などを自由にご記入ください。

<キーワードを類型化後、件数の多い順に主な意見・要望等とともに記載>

### ■治水対策全般【343件】

治水対策【156件】、堤防の強化【103件】、河道掘削【23件】、狭さく部等の掘削【19件】、遊水地の整備【17件】、排水機場の復旧・整備【13件】、防災拠点となる施設整備【12件】

### ■支援への感謝等【72件】

- ・本当にたくさんの人々に助けていただいた。たくさんのお愛をいただいた。涙が出るほど嬉しかった。だから前を向けたし、今があると強く思う。ボランティアの人々、仲間たち、家族のみんなにお礼がしたい。[豊野/30代]
- ・市やボランティア団体の活動に対して大いに感謝している。対応も親切だった。この度の経験を活かし、更なる危機管理体制を構築してほしい。[篠ノ井/70歳以上]
- ・台風に関わっての窓口の開設やLINE、広報等の情報提示をはじめ、ボランティアなどとても迅速に判断早くやってもらえて、被災した者として沢山の安心を感じた。[松代/50代]

### ■災害復興計画への要望【45件】

- ・温暖化による自然災害を最大限考慮した計画づくり。[豊野/60代]
- ・復興には年月がかかるので、最後までしっかりと責任を持てるような計画を立ててほしい。[松代/50代]

### ■支援の基準、あり方【43件】

- ・色々手厚い支援はあるが、それに必要な書類を集めるのに苦労する。[長沼/50代]
- ・被災者支援の内容をしっかりと考えてほしい。生活必需品支給の選べる品物が少なく、被災者が望んでいる物とは、程遠い内容だった。[長沼/40代]

### ■災害時の情報共有のあり方【35件】

- ・防災無線が聞き取りにくいのでもう少し増やしてほしい。[長沼/50代]
- ・災害時の広報を郊外スピーカー、防災無線きりに頼らず、人的連絡体制での広報にも努めていただきたい（消防、広報車、組単位の連絡体制など）。[豊野/60代]

### ■速やかな復興、対応を期待【23件】

- ・復興を目指す以上、早期（5年以内）に完了させること。長野市の本気度が試されている。[古里/60代]

### ■地域の魅力づくり【18件】

- ・若い世代の定住のためにも、企業の誘致やPRをもっと行ってほしい。[豊野/20代]

### ■農業の振興【14件】

- ・復興りんごとして「負けないりんご」を地域ブランド化して全国に売り出してほしい。他の土地ではお金を出してもあの味には出会えない。[長沼/40代]

**■災害発生後の情報伝達方法の改善【14件】**

- ・市からのお知らせが県からのものと重なったり、表現が違ったり、分かりにくかった。文章が役所言葉で理解が難しかった。[篠ノ井/60代]

**■道路の整備【14件】**

- ・都市計画道路の整備を早く進めてほしい。[篠ノ井/70歳以上]

**■住民の声を聴いてほしい【13件】**

- ・地域の意見を聞く機会を今後もたくさん設けてほしい。[長沼/40代]

**■生活再建支援金の増額【12件】**

- ・近所とも支援金が足りず困っている話をいつもしている。[長沼/50代]

**■災害発生の原因究明【11件】**

- ・今回の水害がなぜ起きたのかしっかり検証して対策を立ててほしい。[豊野/50代]

**■公営住宅、仮設住宅など【11件】**

- ・非常に良い仮設住宅を建ててもらったので、ただ壊してしまうのではなく、何かに利用できればよい。[長沼/50代]

**■地域による差異【10件】**

- ・被害の多い所には、手厚く対策しているが、数少ない地区の意見はなかなか届いていない。[若穂/50代]

**■避難指示に関する要望【7件】**

- ・災害の種類に応じて素早く避難指示してほしい。[篠ノ井/30代]

**■土地利用の見直し【6件】**

- ・市街化調整区域の見直しも必要ではないか。[長沼/70歳以上]

**■避難所以外の被災者への対応【5件】**

- ・避難所にいる人のみが被災者で、在宅の人は被災者ではないような扱いをされた。[豊野/50代]

**■地域コミュニティの再生【4件】**

- ・消防団は地域コミュニティの一つの形だと思うので、地元消防団へのサポートを充実させてほしい。[豊野/40代]

**■その他【46件】**

- ・災害現場の現状の様子は子どもたちに見せられない。誰が見ても住みたい土地、安心できる住む場所になるよう期待する。[長沼/70代]
- ・長野内外の人から注目され足を運ぶ、定期的な催しを期待する。[篠ノ井/40代]

## パブリックコメント結果

意見募集期間	令和2年2月27日～令和2年3月18日
閲覧場所	市ホームページ、本庁（復興局・行政資料コーナー）、各支所、被災地区交流スペース等
意見の提出方法	ながの電子申請サービス、電子メール、ファクシミリ、郵送、持参（閲覧窓口）
提出者数	51人から166件

対応区分	対応方針	件数
1	答申案を修正する	6
2	答申案に盛り込まれており、修正しない	17
3	答申案は修正しないが、今後の取組や実施事業において、検討又は参考とする	31
4	答申案に盛り込まれていないが、検討の結果、修正しない	7
5	その他（質問への回答や現状説明など）	105
合 計		166

## 5 過去の主な水害の状況

〈出典：長野市消防局「消防年報」〉

西暦	年月日	水害の状況
1468	応仁 2. 7. 20	大洪水、連日の豪雨により赤沼（長沼村の集落）の大堤小堤の間の水、幾日も乾かず。
1550	天文19. 8月	長沼村大洪水、弧塚の人家現在地に移る。大町の証各寺、徳乗寺水害のため町屋敷へ移転。暴風雨に加えて氷塊が降り長沼神社大破
1620	元和 6. 8. 11	千曲川洪水、塩崎村は水防のため沿岸に楊柳を植える。
1650	慶安 3. 9. 1	千曲川増水、塩崎村にて1丈3尺（約3.9m）家屋浸水し水田被害多し。
1660	万治 3. 8月	犀川洪水、綱島村高73石の地、荒地となる。
1662	寛文 2. 8. 1	千曲川・犀川洪水、真島村、川合村浸水し被害あり。
1670	寛文10. 6. 8	千曲川増水、塩崎村にて増水1丈2尺（約3.6m）被害あり。
1671	寛文11. 7. 2	千曲川洪水、塩崎村にて増水1丈4尺、水田荒れ浸水家屋多し。
1680	延宝 8. 7. 9	千曲川洪水、八幡村町裏（現千曲市）に浸水、塩崎村増水1丈6尺（約4.8m）沿岸の水田荒れ、家屋浸水多し。
1696	元禄 9. 8月	犀川洪水、綱島村高180石5斗8合の地、荒地となる。
1701	元禄14. 8月	千曲川・犀川大洪水、青木島村鍛冶沼部落流亡し、住民四散、綱島村高396石8斗6升7合の地、荒地となる。
1705	宝永 2. 7. 8	犀川・千曲川洪水、真島村凡天浦の堤防破れ、濁流四ツ橋、西沖、蔵王沖等に浸水し被害あり。
1723	享保 8. 8. 10	千曲川洪水、塩崎村松節堤防決壊し、畑地流れる。
1731	享保16. 4. 3	千曲川増水（5.18共）、塩崎村で増水1丈5尺被害あり（亥年の大水害）。
1739	元文 4. 8月	犀川洪水、綱島村高450石6斗余の地、荒地となる。この時明桂寺流失
1742	寛保 2. 8. 1	台風が運んだ集中豪雨、松代領を中心とする善光寺平の182か村で田畑冠水、山抜け多く、流れ屋1,731軒、潰・半潰1,111軒、流死1,220人、流馬64頭、用水堰埋没等の被害甚大。松代城内床上浸水6尺～1丈、藩主舟で西条村開善寺へ避難（寛保戌の大満水）
1757	宝暦 7. 5. 1 ～5	1日から5日に至る大雨で千曲川・犀川大洪水、塩崎村で増水1丈5尺人家60軒泥土侵入、犀川沿岸の丹波島村、青木島村等に被害多し。同年末松代藩は、幕府に収穫高半減を報告、1万両借用生活困窮者を救い、復旧工事を起こす。
1765	明和 2. 4. 15 ～16	犀川・千曲川大洪水、沿岸被害多し、真島村常円寺流失。松代藩幕府より1万両借用。翌3年より犀川・千曲川沿岸の堤防修築する。
1775	安永 4. 8. 8	千曲川洪水、塩崎村で堤防崩れ、鎌成（かまなり）堂前川欠（流失）なる。
1789	寛政元. 6. 17	千曲川・犀川大洪水。丹波島村、真島村で25軒流失、綱島村高110石6斗余の地が荒地となる。浄円寺罹災のため小島田村の現住地へ移転
1807	文化 4. 6. 1 ～7	1日の朝から大雨、藩主参勤交替のため松代表を出発、雨激しく鼠宿（坂城町）に逗留千曲川、神田川の堤防決壊し、松代町及び沿岸各村大洪水4日雨止み5日藩主江戸に向う。7日犀川堤防決壊、大塚、小島田、下水鉤辺りまで一面の湖水となる。

西暦	年月日	水害の状況
1823	文政 6. 8月	千曲川・犀川大洪水、四ツ屋村犀川堤防決壊し、丹波島村、青木島村、中甸真島村を濁水貫通被害多し
1824	文政 7. 8. 15	千曲川洪水、西寺尾村の七分通り床上浸水、田畑作物皆無
1828	文政11. 6. 30	(松代) 暴風雨。千曲川氾濫、各所で堤防決壊、千本柳、粟佐（現千曲市）、松代等に田畑浸水、家屋流失の被害あり。
1855	安政 2. 7. 29 ～ 8. 1	千曲川洪水、塩崎村255軒、西寺尾村34軒浸水、3日間の浸水により作物の収穫皆無となる。
1859	安政 6. 7. 25 ～26	千曲川洪水、塩崎村で増水1丈5尺。ニツ柳、御弊川、会、小森、東福寺民家浸水数百軒、田畑被害甚大
1864	元治元. 8. 9 26～28	8月9日、26～28日千曲川洪水、西寺尾村の人家5分通り（半数）床上浸水し、田畑作物皆無
1866	慶応 2. 5. 15	9日より雨降り止まず裾花川氾濫、15日岡田の土手切れ、中御所、栗田、千田方面大洪水
1868	慶応 4. 4. 18	犀川・千曲川共に洪水、西寺尾村浸水100戸、麦作流失。真島村の堤防600間（約1km）根底より流失
1876	明治 9. 9. 7	千曲川大洪水、塩崎村松節堤防決壊し、全戸数900余のうち200戸余に浸水
1882	明治15. 10. 1	千曲川大洪水、塩崎村松節堤防決壊し、田畑冠水し家屋639戸浸水（七二会）洪水で犀川船橋用の舟3艘（1艘75円）夜中に流失
1889	明治22. 9. 12	千曲川洪水、塩崎村松節堤防決壊し、田畑250余町歩に冠水、角間、山崎、平久保130余戸浸水
1896	明治29. 7. 21	千曲川・犀川本支流共に大洪水、松節堤防決壊により塩崎村で流失1戸、浸水508戸。関屋川・神田川堤防決壊し、松代町・西条村等で田畑・家屋の流失あり潰55、浸水1,347戸
1898	明治31. 9. 7	豪雨により各地で大洪水。松代町及び周辺諸村は神田川及び関屋川、千曲川の氾濫で家屋、田畑の流失、浸水の被害大。千曲川の洪水で塩崎村は平坦部全域に浸水（寛保2（1742）年以来の大水害）
1906	明治39. 7. 16 ～28	千曲川洪水、川柳、栄、東福寺、西寺尾、真島の各村に耕地、家屋の流失・浸水等の被害あり、赤坂橋、粟佐橋など流失
1907	明治40. 8. 15	15日千曲川大増水、沿岸の諸村に浸水。24日大洪水、川柳、東福寺、西寺尾の3か村で床上295戸・床下288戸浸水、翌日も減水せず、焚出米を皆舟で送る。
1907	明治40. 8. 24	2回の水害で赤坂、寺尾、粟佐、小島田、関崎の5橋流失
1910	明治43. 8. 10 ～15	全国的な大雨、千曲川氾濫し各所で堤防決壊により塩崎、川柳等の各村で潰825床上、浸水1,990戸、死者1人。屋島橋付近の堤防決壊し朝陽、柳原、長沼の3か村浸水で一面湖水と化す。
1911	明治44. 8. 3 ～5	3日以来の雨で湯福川の上流葛山で山抜け発生、4日夜半土石流となって、塩沢鉱泉を襲い、湯福神社から東之門町、岩石町等に流入、権堂境の鐘鑄川で止まる。 聖川堤防決壊し塩崎村で床上53戸、床下218戸に浸水、5日午後3時ころ犀川の出水で丹波島橋流失する。



西暦	年月日	水害の状況
1914	大正 3. 8. 13	千曲川洪水、塩崎村浸水家屋433戸
1917	大正 6. 3. 23	南西の暴風雨、夜西長野町より出火8棟18戸焼失、損害約5,000円
1917	大正 3. 10. 1	千曲川洪水、塩崎村被害145戸に浸水
1929	昭和 4. 4. 21	(七二会) 暴風雨災害、全半壊住宅(非住家を含む)、七二会消防組瀬脇部火の見はしごの倒壊その他を含め合計325件11,200円の被害
1931	昭和 6. 7. 25	(七二会) 6月初旬以来の降雨により地滑り、田畑約9町5反崩壊、61,500円の被害、ほかに水車1棟倒壊、2棟危険状態
1934	昭和 9. 9. 21	室戸台風による風被害、塩崎村長谷観音蛇杉、康楽寺鐘楼倒壊する。
1936	昭和11. 4. 19	芋井村麓原一の倉溜池(現飯綱湖)雪解け水満水となって堤決壊、達橋川を流れ下り、橋を残らず流失させ裾花川へ押し出す。
1937	昭和12. 7. 27	(茂菅) 集中豪雨により葛山中腹山抜け、山津浪となって善白鉄道まで押し出し、死者1人を出す。
1937	昭和12. 7. 28	北信一帯に豪雨、湯福川の堤防決壊し濁流は箱清水、横沢町、西之門町等を呑み、さらに鐘鑄川と合流して諏訪町、権堂町などへ氾濫、住宅流失5戸、全壊19戸、床上153戸、床下790戸浸水、湯福神社社殿半壊
1945	昭和20. 10. 5 ~12	県下全域に豪雨、強風あり、各地で鉄道寸断、橋梁流失、堤防決壊、道路損壊、田畑浸水、流失の被害続出。死者・行方不明者32人。川中島平北部で薩摩芋73万貫(約2,737.5t)が流失、新聞は連日薩摩芋の被害状況を報告。12日青木島村綱島地籍で堤防決壊
1949	昭和24. 6. 20 ~23	テラ台風による豪雨で県下の各河川増水、犀川鉄橋から600m下流の犀川堤防の右岸(丹波島地籍)50mほど決壊
1949	昭和24. 8. 31 ~ 9. 1	キテイ台風による暴風雨被害は千曲川流域に集中。堤防決壊により日野村(村山)、豊洲村(相之島)、倒壊流失家屋3戸、浸水657戸、田畑浸水500余町歩、中小家畜全滅、両村は泥海状態。千曲川に架かる粟佐橋、赤坂橋等が流失、岩野橋、更埴橋撤去。長野市の損害軽微
1949	昭和24. 9. 23	県下一円に豪雨、雨量は戸隠村、鬼無里村などに集中、裾花川増水し九反地籍と岡田地籍の2か所で堤防決壊、市内南部の九反、荒木、中御所、若里、大豆島村、朝陽村等に浸水、長野市内で家屋の流失全壊56戸、半壊浸水2,000戸、被災者11,000余人、死者2人
1950	昭和25. 8. 4 ~5	東北信を襲った豪雨で死傷者49人、家屋全壊、流失87戸。千曲川洪水で塩崎、小島田、東福寺などで家屋、田畑の浸水被害、赤坂橋など木橋撤去
1952	昭和27. 7. 14	梅雨前線による県下全域に大雨、塩崎村で聖川、山沢氾濫。西長野において家屋全壊1棟、茂菅地籍において家屋半壊2棟、流失3棟、床上浸水2棟。古牧・五分一、一円田畑冠水55町歩
1953	昭和28. 9. 25 ~26	台風13号により県下全域に被害甚大。塩崎村で聖川異常出水し、県道より下流の堤防決壊する。
1958	昭和33. 9. 18	台風21号による大雨被害は北東信に集中、千曲川増水により更北村小島田、中沢沖において左岸堤防へ溢水し、付近住宅に浸水する。
1959	昭和34. 8. 14	台風7号の被害、県下全域に及び、損害総額226億円。千曲川の増水で更北村、小島田中沢沖に溢水。犀川は川合地籍、丹波島地籍に被害

西暦	年月日	水害の状況
1959	昭和34. 9.26 ～27	台風15号（伊勢湾台風）、県下全域で損害総額94億円を出す。北信地方では千曲川沿いに強風が吹き、若穂町はりんごの落果が多く、27日同町の綿内小中学校体育館倒壊
1961	昭和36. 6.23 ～ 7. 1	昭和36年梅雨前線豪雨、大雨と地滑りで県有史以来最大の人的被害、死者107人、不明29人、重軽傷者1,164人。市内の被害、田畑の冠水約1,250ha、被災世帯数2,078戸。千曲川増水で27日落合・屋島橋等の木橋を撤去、丹波島橋上流500mの地籍で堤防決壊（6月30日小市橋流失）
1962	昭和37. 7.13	北信地方に激しい雷雨。午後6時から西条地区の山間部に短時間に167mmを記録する豪雨が襲う。崩れた土砂は人家に流れ込み、神田川の堤防が西条表地区で決壊、東条地区でも洪水。建物、農作物の被害総額5,000万円、罹災害5,313人、同夜災害救助法発令（西条地区集中豪雨災害）
1964	昭和39. 7.10 ～12	県下全域に梅雨前線豪雨、綱島野球場（NTT信越更北グラウンド北側）堤防決壊
	昭和39. 9.24 ～25	台風20号大雨と強風で県下全域を襲い総額399億円の被害。北信地方は強風によりりんごの落果多く、上高井地方（含若穂町）では栽培面積の約50%、3,000トン以上のりんご落果。豪雨で丹波島裏の堤防（現三本柳東一丁目付近）決壊
1967	昭和42. 8.26	停滞前線により北信一帯大雨、長野市内1時間最大降水量24mm、堀切川沿い175戸、鐘鑄川沿い35戸に床下浸水あり。
1970	昭和45. 6. 5 ～6	長野市、須坂市中心に住宅浸水383棟。大雨、雹によるりんご野菜等農作物1,735ha、その他に総額8億2,683万円の被害を出す。
1970	昭和45. 8.23 ～24	北・中信に大雨、雹、雷発生、長野市内1時間の降水量59mm、23日権堂中心に水害発生、床上7戸、床下283戸浸水、地下式立体交差ガード通行不能3か所、24日床上1戸、床下556戸浸水
1971	昭和46. 9. 6 ～7	秋雨前線による大雨、県下全域の被害総額82億6,271万円。長野市内床下99戸浸水、公共土木施設76か所に被害あり。
1973	昭和48. 7. 2	低気圧の影響で北・中信に大雨、長野市北部一帯床上18戸、床下769戸浸水、公共土木施設等115か所に被害あり。
1974	昭和49. 7.11 ～19	梅雨前線豪雨県下全域に及ぶ。市全域で床上1戸、床下39戸浸水、地滑り5か所、公共土木施設122か所、その他に被害
1975	昭和50. 6.10	県下一円に大雨、降雹、市全域で床下浸水88戸、公共土木施設44か所、その他に被害
1975	昭和50. 7.12	梅雨前線豪雨により県下全域に131億600万円の被害、市全域で床下浸水21戸、公共土木施設62か所、その他に被害
1976	昭和51. 6.14	梅雨前線は北・中信に大雨を降らせ、市全域で床下浸水45戸、公共土木施設58か所、その他に被害
1976	昭和51. 9. 9	台風17号による大雨、全県の被害総額49億4,500余万円。長野市全域で床下浸水48戸、公共土木施設68か所、その他に被害
1979	昭和54. 6. 3	県下全域に大雨、鐘鑄川沿い住宅床下浸水56戸
1979	昭和54. 7.10	北信一帯に大雨、吉田、三輪、古牧、上松等で浸水68戸

西暦	年月日	水害の状況
1979	昭和54. 8.22 ～23	県下全域で大雨、浅川地区（門沢、西平、北郷）で道路落壊3か所、床下浸水5戸 裾花川長安橋下流400m地点で護岸70m決壊、右岸50m地点で30m決壊
1980	昭和55. 8.14	北信一帯に大雨。芋井、浅川、三輪地区等に集中豪雨、床上1戸、床下106戸浸水
1981	昭和56. 8.22 ～23	台風15号は県下全域に総額406億円余の被害出す。市内で家屋一部損壊1戸、浸水1,022戸（松代、若穂地区合わせて763戸浸水、特に松代温泉団地の被害甚大）、農作物の被害総面積390ha、公共土木関係被害243件、長野市の被害総額23億6,000万円余
1982	昭和57. 8. 2	台風10号は県下全域を襲い、被害額1,105億3,865万円。千曲川は昭和56年の台風15号を上回る出水。篠ノ井、松代、若穂、更北地区の河川敷に冠水、農作物ほぼ全滅、強風でりんごの落下全市的に及ぶ。負傷者4人、家屋一部損壊15棟。長野市の被害総額24億1,540万円余
1982	昭和57. 9.10 ～12	台風18号と秋雨前線が重なり県下全域で強風、大雨襲来。千曲川の水位上昇で中小河川溢れ、長野市全域で床上450戸、床下511戸浸水、家屋一部損壊3棟、負傷者3人、道路・河川の決壊329か所、その他に被害
1983	昭和58. 8. 7 ～10	県下全域で大雨、雹による被害。市内は連続の豪雨で中河川氾濫、市街地で床上9戸、床下812戸浸水
1983	昭和58. 9.27 ～28	台風10号は2日間で県全域に130mm以上の豪雨を降らせ、総額1,717億円余の被害。市内全域で床上454戸、床下419戸浸水、家屋損壊12棟
1985	昭和60. 6.30 ～7. 1	台風6号と梅雨前線豪雨で、県下全域の被害総額464億円余。犀川増水、真島町川合地籍で堤防洗掘、市内各所で小河川溢水
1995	平成 7. 7. 8 ～13	11日午後から12日昼頃にかけて県北部を中心に集中豪雨。特に鳥居川下流の豊野町浅野地区は甚大な被害。浅川、裾花川、犀川、岡田川の堤防洗掘、溢水など水害21か所、土砂災害36か所、家屋全壊2戸、半壊2戸、一部損壊3戸、床上5戸、床下5戸浸水、道路等に甚大な被害あり、損害額10億円余（平成7年7月梅雨前線豪雨災害）
2004	平成16.10.20 ～21	台風第23号の上陸に伴い、20日の一日降水量が124.5mmと1889年以降最高を記録。このため浸水や土砂崩れ等甚大な被害が全市的に発生
2006	平成18. 7.15 ～24	15日から19日にかけて県下で記録的な豪雨、被害額約557億円。長野では17日～19日までの累計降水量161mmを記録。18日～21日にかけて、河川の溢水25件、土砂崩落11件、倒木等4件が発生（平成18年7月豪雨）
2010	平成22. 7.16 ～17	信更、篠ノ井地区などで集中豪雨、土砂崩落や土石流浸水等の被害が発生。59件の災害事案
2012	平成24. 7.20	記録的な豪雨（3時間降水量の日最大値73mm、日最大24時間降水量120mmとともに長野气象台で観測史上1位を更新）により、古牧地区の一部に避難勧告発令、市内で床上浸水14棟、床下浸水126棟

## 6 用語の解説

索引	用語	解説	本編掲出ページ
あ	アプリ（アプリケーション）	スマートフォンなどに入れて使える様々なソフトウェアのこと。正式名称は、アプリケーション。	46, 47
い	インバウンド	日本以外に居住する外国人が、日本を訪れ、日本国内を旅行すること。	64, 65, 109
	インフラ（都市基盤）	インフラストラクチャーの略。道路、鉄道、公園、河川等の都市の骨格を形成する根幹的な都市施設。	1, 8, 23, 25, 26, 34, 35, 45, 71, 80, 90, 97, 105, 114
う	裏法尻	宅地側の堤防法面下部角のこと。	39, 41, 73, 74, 83, 84, 98, 99, 106, 107
え	越水	増水した河川の水が堤防の高さを越えて流れ出す状態のこと。	8, 12, 13, 38, 94, 102
お	応急仮設住宅	災害で家屋を失い、自力での住宅確保が困難な被災者のために、自治体が供与する仮の住宅。	17, 20, 27, 28, 30
	オリンピック・パラリンピックムーブメント	いかなる差別もなく、友好、連帯、フェアプレーの精神をもって、相互理解を推進する「オリンピック精神」に基づき、スポーツを通して青少年を育成することにより、平和でより良い世界を建設し、国際親善に貢献しようとする事。	60, 61
か	街路	都市部に存する道路。	80, 97, 105
	霞堤	堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地（堤防の内側の土地で人が住んでいる場所）側に延長させて、開口部の上流の堤防と二重になるようにした不連続な堤防。	39, 73, 83, 98, 106, 115
	河道	河川の流水が流れ下る部分で、通常は堤防又は河岸と河床で囲まれた部分。	39, 41, 73, 74, 83, 84, 91, 98, 99, 106, 107, 115, 116
	灌漑用水	農作物の生育に必要な水を、水路を引くなどして供給し、耕作地を潤すこと。	86
	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。	32, 33, 57, 58, 59, 62
	観光プロモーション	観光の広告・広報（PR）などの誘客活動のこと。	57
	緩衝帯	野生獣の隠れ家や通り道となる里山周囲の荒廃森林等の藪払いや除伐等を実施し、見通し良く整備した区域。	117
	き	危機管理型水位計	よりきめ細やかな河川水位の把握に資するため、洪水時に特化した低コストな水位計。
危機管理型ハード対策		従来の「洪水を河川内で安全に流す」対策に加え、氾濫した場合にも被害を軽減する対策。	39, 73, 83, 98, 106

索引	用語	解説	本編掲出ページ
き	危険空家等	そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態等の空家等。	45
	危険ブロック塀等	地震で倒壊するおそれのある状態のブロック塀等。	45
	キャリア形成	ある人が仕事を通じて職業能力を習得する活動のこと。	56
	狭あい道路	幅員4メートル未満の狭い道路。	45
	狭さく部	すばまって狭い部分、箇所。	39, 73, 83
	共助	普段から顔を合わせている周囲の人や地域が協力して対処すること。	38
	協働	様々な人や組織が互いを理解し合い、対等な立場でそれぞれの特性や長所を發揮しながら、果たすべき役割や責任を明確にし、共通の目的の達成に向けて力を出し合うこと。	23, 118
	業務継続計画、事業継続計画(BCP)	災害発生時など、人材や資材に制約がある状況下において、災害対応とともに、適切に業務を進めるための計画。	48, 51, 52, 119
	極値	気象要素がある期間内に示す最高および最低の値。	3
け	計画高水位	堤防などをつくる際に洪水に耐えられる水位として指定する最高の水位。	7
	決壊	堤防が崩壊し、川の水が堤防から流れ出ること。	8, 13, 39, 73, 83, 98, 106
	減災	災害時において発生し得る被害を最小化するための施策や取組。	25, 26, 34, 38, 45, 46
こ	公共施設等総合管理計画	人口減少時代を迎え公共施設等の老朽化対策が大きな課題となる中、国のインフラ長寿命化基本計画に基づき、自治体が作成する公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画。公共施設等の現状と課題、取組の基本方針などを示すもの。	34
	公助	国・県・市や消防・警察等による救助活動や支援物資の提供などの公的支援のこと。	38
	交流人口	その地域に訪れる(交流する)人のこと。	32, 33, 58, 59, 60, 63, 64
	護岸	川を流れる水の作用(浸食作用など)から河岸や堤防を守るために、それらの表法面(川を流れる水が当たる堤防などの斜面)に設けられる施設で、コンクリートなどで覆うような構造のもの。	8, 41, 74, 84, 99, 107, 111, 116
	国土強靱化地域計画	市町村等が定める計画で、当該区域における国土強靱化に関する他の計画等の指針となるもの。なお、「国土強靱化」とは、災害に強く、災害があっても素早く復旧できる、強くてしなやかな国をつくること。	46
	コミュニティ	一定の地域に居住する人々が、自主性と責任に基づき生活の様々な分野において共同する集団や地域社会。	23, 25, 26, 27, 32, 34, 46, 61, 81, 82



索引	用語	解説	本編掲出ページ
さ	災害公営住宅	災害で家屋を失い、自力での住宅確保が困難な被災者のために、自治体が国の補助を受けて供給する賃貸住宅。	26, 30, 31, 81, 82
	災害査定	国が被害の程度を確認し、申請された復旧工事に必要な工法や費用が適正なものであるかを現地で査定するもの。	11
	災害時応援協定	地震や水害等の大規模災害発生時における人的・物的支援について、他の自治体や民間事業者等との間で締結される協定。	48
	災害時受援計画	大規模災害時に、自治体単独での対応が困難な場合に、国や他都市等からの人的・物的支援を円滑に受け入れるための計画。	48
	災害廃棄物	災害により生じた不要物（ごみ）のこと。	15, 16, 30, 31, 48, 71, 80, 81, 98, 105
	災害ボランティア	災害発生時及び発生後に、被災地において復旧活動や復興活動を行うボランティアのこと。	19, 60, 61
	再現実験	所定の条件や手順の下で、同じ事象が繰り返し起こるか、また観察されるかを確かめる実験。	4
	砂防堰堤	土石流など上流から流れ出る有害な土砂を受け止め、貯まった土砂を少しずつ流すことにより下流に流れる土砂の量を調節する施設。	40, 115
し	産学金官	「産」は企業（産業界）、「学」は大学等の学術研究機関、「金」は金融機関、「官」は行政機関等のこと。	55
	自主防災組織	地域住民が自主的に防災活動等を行う組織。	38, 46
	自助	自らの力で、自分自身や家族の命、財産を守ること。	38
	支川	本川に合流する河川。	38, 39, 41, 74, 84, 91, 99, 102, 108, 111, 116
	シティプロモーション	市のイメージや認知度の向上と、今ある資源から新たな魅力を創出することで生み出される市民の愛着や誇りを醸成する取組のこと。市の魅力を地域の内外に効果的に発信する市の営業活動の総称ともいえる。	25, 62
	信濃川水系緊急治水対策会議	令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した信濃川水系における流域内の関係機関が連携して河川整備によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に進めるための、国・県・市町村で構成する会議。	43
	信濃川水系緊急治水対策プロジェクト	国・県・流域市町村が2020（令和2）年1月に共同で策定・公表した計画。具体的には、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指して関係機関が連携して取り組む計画。	38, 41, 43, 74, 84, 99, 107, 116

索引	用語	解説	本編掲出ページ
し	ジビエ	一般的には狩猟により食材として捕獲された野生鳥獣やその食肉を意味するが、本計画では農作物等に被害を与えた害獣として捕獲されたイノシシやニホンジカの食肉を示す。	65, 66, 110, 117
	縦貫	縦又は南北に貫くこと。	110
	住民自治協議会	良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行っている住民の自主的な団体で、住民の福祉の増進に向かって市と協働する関係にある組織のこと。2009（平成21）年度までに市内全32地区で設立され、地域の実情に合わせた特色ある活動が進められている。	32, 118
	しゅんせつ （浚渫）	河川などで水底の土砂等を掘りあげる工事のこと。	39, 41, 73, 74, 83, 84, 91, 98, 99, 107, 108, 115, 116
	信州ITバレー 構想	長野県産業イノベーション推進協議会が、Society 5.0時代にふさわしいIT産業の集積地を目指し、2025（令和7）年を目途に、IT人材の育成・確保やIT産業の振興に資する施策を中心に、産学官で共有し取り組むべき方向性について取りまとめたもの。	65
	浸水	洪水による氾濫によって住宅などが水につかること。	1, 3, 8, 9, 12, 13, 26, 38, 39, 68, 69, 73, 77, 78, 83, 87, 88, 94, 95, 98, 102, 103, 106, 111, 112, 115
	森林の水源かん 養機能	森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化（洪水緩和）し、川の流量を安定させる機能。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される機能。	54
す	水位	河川などの水面の位置を観測所ごとに設定した基準面からの高さで表した値。	5, 6, 7, 15, 42
	水位観測所	河川の水位や流量を測るために設けられた場所。	7
	水系	同じ流域内にある河川、湖沼、水路の総称。	38, 41, 43, 74, 84, 99, 107, 116, 118
	水防団待機水位	水防機関が水防体制に入る水位。	7
	スクールカウンセラー	児童生徒や保護者を対象とした相談・支援、教職員を対象とした助言・研修などを行う心理の専門家。	28
	スクールソーシャルワーカー	不安や悩みを抱えている児童生徒や保護者を取り巻く環境を改善するため、家庭・学校・専門機関等の連携した体制づくりを支援する福祉の専門家。	28, 29
	スマートインターチェンジ	高速道路の本線や既存施設から一般道に出入りできるよう設置されたETC専用の簡易型インターチェンジ。	117

索引	用語	解説	本編掲出ページ
せ	善光寺門前イノベーションタウン構想（ZIT構想）	「信州ITバレー構想」に位置付けられた事業の一つで、善光寺門前界限を中心にIT企業や高度人材を集積し、様々なイノベーションを誘発することで、「Society 5.0を体現する街」、「起業家精神を育む街」などを目指す構想。	65, 66
	扇状地	川が山地から平地へ流れ出る所にできた、扇形に形成された地形。	86, 110
	先進医療	高度な医療技術を用いた治療法や技術、その他療養のうち、公的医療保険の対象になっていないもので、有効性や安全性について一定基準を満たしたもの。	86
そ	ソフト	人の働きかけや仕組みなど、直接目には見えない「コト」としての要素。防災対策上では、「構造物によらない被害軽減手法」のこと。	26, 38, 40
た	対口支援	大規模災害発生時に、被災自治体にパートナーとなる都道府県や政令指定都市を決めて応援職員を派遣する総務省の制度。	15
	高潮	台風や低気圧の影響で起きる海面上昇のこと。	1
	高波	強風が原因で起きる、被害をもたらす波のこと。	1
	田んぼダム	田んぼの排水口の既存のせき板の上部に小さな穴の開いたせき板を設置し、水路への水の流出を抑制することでダムの役割を果たす田んぼのこと。多くの田んぼで取り組むことで、大雨時に水田内に水を貯留させ、下流域の洪水を軽減させる効果がある。	43, 44
ち	地域経済牽引事業	地域の特性を活かして高い付加価値を創出し、地域の事業者に対する相当の経済的効果を及ぼすことにより、地域における経済活動を牽引する事業。	55
	地域防災計画・水防計画	災害対策基本法に基づき、災害発生時の応急対策や復旧など、災害に係る事務・業務に関して定めた計画。	48, 49, 119
	地域密着型プロスポーツチーム	地域を拠点とし、株式会社などの経営体が運営するプロスポーツチームで、試合での活躍や試合以外でのイベントへの参加など地域と密着した活動を行い、地域住民はチームの応援や会員となるなどサポートを行う。このような関係を保ちながら活動することで、ファンを獲得し観客数増加につなげるとともに、地域のスポーツ振興や地域活性化に寄与する効果がある。	60
	地区防災計画	災害対策基本法に基づき、市内の一定の地区の居住者、事業者等が共同して行う防災活動に関する計画。	46, 47
	地先	その場所の近くのこと。	68, 77, 87
	治山堰堤	川の流れによる河岸・山腹の浸食を防ぎ、土砂の流出を減らすことで、上流の森林を保全したり、緑地や森林を造成したりする目的で設置される施設。	40, 115
	地産地消	地域で生産された農林水産物を、生産された地域内において消費する取組。	54, 75, 85, 92, 100, 109, 116, 117



索引	用語	解説	本編掲出ページ
ち	治水	洪水などの水害を防ぎ、また農業用水の便のため、河川の改良・保全を行うこと。	25, 26, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 67, 73, 74, 75, 83, 84, 85, 91, 98, 99, 100, 106, 107, 108, 115, 116, 118
	治水安全度	洪水に対する川の安全の度合いを表すもので、被害を発生させずに安全に流せる洪水の発生する確率（確率年）で表現する。	39, 73, 83, 98, 106, 115
て	堤外地	堤防から見て河川側の土地。	102, 111
	堤防	河川の水が氾濫しないことを目的としてつくられた構造物。	8, 10, 13, 35, 38, 39, 41, 68, 71, 73, 74, 77, 83, 84, 87, 94, 97, 98, 99, 106, 107, 114, 115, 116
	出前講座	市民が主催する勉強会・研修会などに講師として市職員を派遣し、市政に関する説明や専門知識を活かした講座などを行うこと。	46, 47
と	都市計画道路	都市の骨格を形成し、円滑な都市活動と良好な都市環境を確保するため、都市計画法に基づき都市計画決定された道路。	85, 97
な	内水（内水氾濫）	堤防で守られた堤内地（堤防の内側の土地で人が住んでいる場所）にある水のこと。大雨時に堤内地に雨水がたまり、建物や土地・道路などが水に浸かってしまうことを「内水氾濫」という。	8, 13, 38, 39, 41, 68, 73, 74, 77, 83, 84, 94, 98, 102, 106, 111, 115
に	二線堤	河川沿いにある本堤とは別に住宅地側に造られた第二の堤防のこと。本堤が決壊した時に被害の拡大を防ぐ。	41, 73, 74, 83, 84
	認定農業者	農業者が自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする「農業経営改善計画」を市町村に提出し、市町村の認定を受けた農業者（法人を含む）のこと。	53
は	ハード	施設や整備、道具など、「モノ」としての要素。防災対策上では、「何らかの構造物による被害軽減手法」のこと。	26, 39, 42, 73, 83, 98, 106
	排水機場	大雨などによる住宅地や農地への水害を未然に防止するため、排水ポンプを運転して、雨水や生活排水などを河川に強制的に排水するための施設。	10, 13, 39, 41, 68, 73, 74, 75, 77, 83, 84, 94, 96, 98, 99, 107, 108
	排水路	雨水などの排水のために設けた水路。	8, 39, 42, 83, 85, 86, 89, 91, 98, 100, 102, 107, 108, 111

索引	用語	解説	本編掲出ページ
は	ハザードマップ	予想される災害の程度や浸水情報、避難情報等の各種情報を分かりやすく図面等に表示したもの。	46
	破堤	堤防が壊れ、増水した川の水が堤内地（堤防の内側の土地で人が住んでいる場所）に流れ出すこと。	68, 69, 77, 78, 87, 88
	パブリックコメント	計画や条例などを定めようとする際に、案の段階から公表し、広く市民から意見・提案を募る制度のこと。	23
	パラペット	河川に堤防を設ける際に用いられるコンクリート製の特殊堤のこと。	108
	氾濫（はんらん）	河川の水などが増して勢いよくあふれ出ること。洪水になること。	1, 5, 6, 7, 8, 12, 13, 68, 77, 83, 86, 94, 98, 102, 106, 111, 115
	氾濫危険水位	洪水により相当の家屋浸水等の被害を生ずる氾濫の起こる可能性のある水位。	5, 6, 7
	氾濫注意水位	住民の氾濫に関する情報への注意喚起や水防団の出動の目安となる水位。	7
ひ	避難確保計画	水害や土砂災害が発生するおそれがある場合における要配慮者利用施設の利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた計画。	40, 42
	避難判断水位	洪水による被害の発生を特に警戒すべき水位。市長の避難準備情報発表の目安となる水位。	7
	樋門	堤防の下を通り抜ける、排水・灌漑用の水路。	15
	表土	土壌層のうち最も表層部にある土壌のこと。	50, 51
ふ	プッシュ型支援	被災した自治体からの要請を待たずに、必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に緊急輸送する支援方法。	15
	ふるさと納税	応援したい自治体に寄附ができ、寄附金が所得税・住民税の控除の対象となる公的な仕組みのこと。	21, 32, 58, 59, 62
	フレイル	「健康な状態」と「要介護が必要な状態」の中間で、早期に適切な運動やバランスの良い食事、外出、交流等を行うことによって、再び、健康で活動的な暮らしに戻れる段階のこと。フレイルのまま過ごしていると、介護が必要な状態になる可能性が高くなる。	58, 59
ほ	防災マップ	地震や河川の氾濫などの自然災害が発生した場合に、住民が素早く安全な場所に避難するために必要な情報を、地図上に描き記したもの。	46, 47
	ホームタウン	地域密着型プロスポーツチームが本拠とする都道府県又は市町村のこと。	60, 61
	本川	流量・長さなどが最も重要と考えられる、あるいは最長の河川のこと。	7, 38
ま	マイ・タイムライン	台風や大雨の水害など、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整備した自分自身の防災行動計画のこと。	40, 42, 46, 47

索引	用語	解説	本編掲出ページ
ゆ	有害鳥獣	人間や家畜、農作物などに危害・被害を与えるニホンジカ、イノシシ、熊、カラス等の野生鳥獣。	65, 110, 117
	遊水機能	河川沿いの田畑などにおいて雨水又は河川の水が流入して一時的に貯留する機能。	39, 73, 83, 98, 106, 115
	遊水地	洪水を一時的に貯めて、洪水の最大流量を減少させるために設けた区域。	39, 41, 98, 99
よ	要援護者	災害時において、安全な場所に避難する際に支援を要する人のこと。高齢者をはじめ、乳幼児、妊婦などが挙げられる。	46, 48
	要配慮者利用施設	浸水が想定される地域における社会福祉施設、学校、医療施設等の施設。	40
ら	ライフライン	生活に必須な上下水道、電気、ガス、通信などの管状のシステム。(広義では、鉄道や道路なども含むが、本計画では上記に限定して使用するもの。)	1, 25, 34, 35, 45
り	リエゾン	災害対策現地情報連絡員のこと。国・県等から被災地に派遣され、災害情報等の収集や、国・県等、現地災害対策本部、被災市町村の間で情報・状況の連絡係を行う担当者。	15
	り災証明書	被災した住家等の被害の程度を市が証明するもの。 なお、判定の基準は、以下のとおり。 全壊：流失又は床上1.8メートル以上の浸水 大規模半壊：床上1メートル以上1.8メートル未満の浸水 半壊：床上1メートル未満の浸水 一部損壊：床下浸水（一部床上浸水も含む）	9, 15, 68, 77, 87, 94, 102, 111
	流域（流域面積）	一つの河川に対して、降雨が流れ込む範囲。その面積を流域面積という。	4, 5, 6, 38, 39, 40, 41, 94, 102, 111, 118
	流出抑制対策	雨水が河川や下水道に直接的に流出しないようにするための対策。	42, 83, 85, 91, 99, 100, 107, 108, 115, 116
れ	連携中枢都市圏（長野地域連携中枢都市圏）	相当の規模と中核性を備えた中心都市が、近隣の市町村と連携し、経済成長のけん引、都市機能の集積・強化、生活関連機能サービスの向上に取り組むことで、人口減少社会にあっても、一定の圏域人口を有し、活力ある地域経済の維持を目指すもの。長野地域連携中枢都市圏では、長野市を中心都市とし、近隣の須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村及び飯綱町で形成。	57
ろ	ロードマップ	ある目標へ向けての道筋。行程表。	25ほか多数
わ	ワーキンググループ	作業部会。特定の問題の調査や計画の推進のため設けられた部会。	118
A-Z	DVT検診	四肢又は骨盤の深部静脈で血液が凝固する深部静脈血栓症の検診。二次的被害の予防の観点から実施し、血圧、酸素飽和度、下肢エコー検査等により診断を行う。	16

索引	用語	解説	本編掲出ページ
A-Z	ER型救急	重症・軽症や、内因・外因・疾病の種類などに関わらず、様々な救急病態に対応する医療のこと。	86
	ICT	Information and Communication Technologyの略。情報や通信に関する技術のこと。	65, 66
	Lアラート	災害発生時に、放送局・アプリ事業者等の多様なメディアを通じて、地方公共団体・ライフライン事業者等が地域住民等に対して必要な情報を迅速かつ効率的に伝達する共通基盤のこと。	46
	SNS	Social Networking Serviceの略。インターネット上で友人を紹介し合い、個人間の交流を支援するサービスのこと。	46
	UJIターン	都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称。Uターンは出身地に戻る形態、Jターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態、Iターンは出身地以外の地方へ移住する形態を指す。	57
数字	6次産業化	「第一次産業」である農林漁業者が、「第二次産業」である食品加工、さらには「第三次産業」である流通や販売までを手掛け、一体化した産業として農業の可能性を広げようとする事。	54, 65, 66